



心の糧

十二使徒評議員会補助

バーナード・P・ブロックバンク



今日、全世界いたるところに、また数多くの主の子供たちの中に、霊の暗黒が見られる。

神に対する不敬、イエス・キリストおよびその福音と戒めの無視、自己と隣人を尊重しない心、結婚と家庭に対する誤った考え、聖典の無視、これらが今、我々の世の中に大きく広がりつつある。

多くの者は神を愛するよりも自己と快楽とを愛し、また創造主を愛するよりも、神により造られたものを愛している。またアルコール、タバコ、刺激物、麻酔薬などを用いる者が後をたたない。あらゆる点において、神により与えられた人間の精神が欲望を抑制せず、逆に欲望が人間の頭脳と精神とを支配しているのである。従って愛が情欲と化することが多い。愛は神からのものであり、情欲はサタンからのものである。

多くの人々、特に若人は現在および未来の世の中に関心を抱き、問いを投げかける。私はよくこう聞かれる。「現在と未来が提供してくれるものは何だろうか。」

若人たちよ、あなたの神、あなたの救い主が死すべき人間にこれまで与えたもうたものは、すべて今日のあなたにとって有用なものである。

— も く じ —

英国の聖徒たちへ……………	大管長	ジョセフ・フィールディング・スミス	49
英国への伝道を顧みて……………		ヒュー・B・ブラウン	54
回復のおとずれ……………		A・セオドア・タトル	58
汝恐るるなかれ……………		アルビン・R・ダイヤー	62
宣べ伝えていることの実践……………		マリオン・D・ハンクス	65
日本のお友だち……………			69
小さなお友だち……………		ハワード・W・ハンター	70
まっくらなおへや……………		ウィルマ・パテラー作	72
次郎の願い……………			74
「あなたが改宗した時」……………		S・デルワース・ヤング	77
マンチェスター コンファレンス……………			80
質疑応答……………			82
神の王国……………		セオドア・M・バートン	86
すべての人はアダムの祝福にあずかる……………		エルドレッド・G・スミス	89
タイの思い出……………			91
ローカル・ニュース……………			94

末日聖徒イエスキリスト教会幹部

大管長会

大管長

ジョセフ・フィールディング・スミス

第一副管長

ハロルド・B・リー

第二副管長

N・エルドン・タナー

大祝福師

エルドレッド・G・スミス

十二使徒定員会

スベンサー・W・キンボール

エズラ・タフト・ベンソン

マーク・E・ピーターセン

デルバート・L・スティブレー

マリオン・G・ロムニー

リグランド・リチャーズ

ヒュー・B・ブラウン

ハワード・W・ハンター

ゴードン・B・ヒンクレー

トーマス・S・モンソン

ボイド・K・パッカー

マービン・J・アシュトン

今月の表紙

今月の表紙は英国からのものである。

表は、英国のマンチェスター近くのバラ園を北英スコットランド地区の十二使徒地区代表であるデリク・A・カスバート長老と共に歩く、末日聖徒イエス・キリスト教会の95歳の予言者、聖見者、啓示を受ける者、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長。

裏は、もう1人の大管長——ウィルフォード・ウッドラフをしのばせるものである。ヘレフォード支部の3人の子供、トルーディー・ワイズマン、シンディー・ワイズマン、それにクリフォード・グリーンハウスがいるのは、ヘレフォードシャーのジョン・ベンボー農場の小川のほとり。1840年、当時十二使徒であったウィルフォード・ウッドラフは、ここで600数人の人々にバプテスマを施した。

(写真：ドイル・L・グリーン)

聖徒の道

1972年2月20日発行

発行人 マービン・S・ハーディング

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

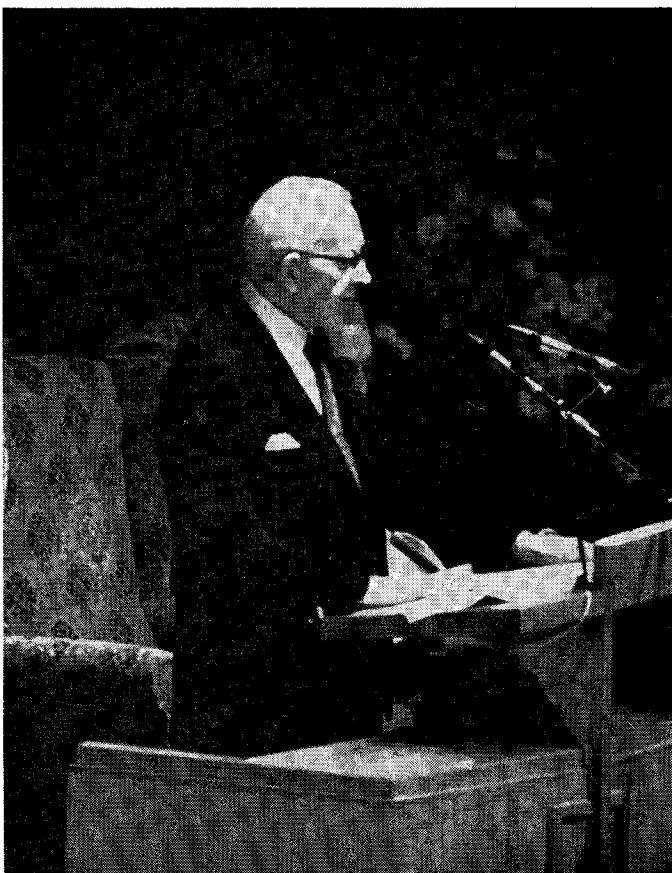
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話 (442) 7459

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間 1,000円

外国 4ドル50セント



英国の聖徒たちへ

開会の辞

大管長 ジョセフ・フィールディング・スミス

このメッセージは、英国マンチェスターで開かれた地区総大会において、8月27日（金）の午後の集会で話されたものである。

愛する兄弟姉妹、私は英国の教会員にあいさつを送ることをことのほか感謝し、愛と友情と一致の気持ちをもってこれを述べるものである。あなた方はこの英国全土において最も選ばかれ、祝福され、愛されている人々である。なぜなら、末日聖徒イエス・キリスト教会に属し、生涯キリストを愛しキリストに仕えるという誓約をキリストのみ名によりその身に受け、天父の王国における永遠の生命へと通じる道の上にいるからである。

教会がこれまでに成長し、総大会を各国で開催する必要が生じたことは、私にとっても兄弟たちにとっても喜ばしきことである。この神権時代の初期に多くの信仰厚き聖徒たちをアメリカへ送ったその源であるイギリスを除いて、この新しい進展の開始を飾るにふさわしい国が他にあるだろうか。

あなた方は、ジョセフ・スミスを除くあらゆる歴代大管長が、この偉大なる地で伝道の業を行なったことを御存知のことと思う。私も70年余り前に若い宣教師としてこの地で働き、その時以来、教会においても世の中においても、数多くの大きな出来事が起こった。ここマンチェスターにおけるこの大会の開催もその1つである。

我々が属しているのは世界の教会であり、生命と救いの計画を有する教会であり、地上にいるすべての子供たちに救いのメッセージをもたらすために、この末日に主御自身の手により設立された教会なのである。

学識ある人々が、我々をアメリカのロッキー山脈に住む奇妙な集団と考えた時から長い期間が過ぎた。教会の本部がソルトレーク市にあり、そこに主の家が建立され、多くの国々から人々が主の律法を学び、主の道を歩むために訪れる。

しかし、今や我々は、1つの教会、1つの民として数えられる時代に至った。我々は成長し、強さを増し、主より予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた、あらゆる民族とあらゆる人々への救いであるよきおとずれを伝える任務を遂行し得るまでになったのである。

また、人の子の再降臨の前に、あらゆる国々において福音を宣べ伝えるのみならず、我々は人々の中に改宗者を立て、聖徒の集会を持つであろう。

予言者ニーファイは我々の時代を示現で見た。彼は人々の中に大いなる邪惡と憎むべきものを見た。そして惡の力が「全世界を支配して、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる言語の民、あらゆる人々の中に権力をふるっている」のを見た。

彼はまた「神の子羊の教会」を見たが「この教会に属している者の数は」他と比較して「少なかった。」しかし、「神の聖徒らである子羊の教会もまた全世界の上にある」のを見た。彼らは地球のあらゆる国々にいたのである。

故に、我々の教会は世界の教会であり、これからもそうなるであろう。それが我々の定めである。主の御計画である。「主の誓約を受け」た民は、「世界の各所にちりぢりとなった」。あらゆる国々に出向き、これらの選ばれた人々を教会に集め、彼らに贖い主の知識を授け、彼らを主の王国の救いを受け継ぐ者とするのは我々に与えられた任務である。

従って、この教会は単にアメリカの教会ではない。カナダにあってはカナダの教会であり、オーストラリアにあってはオーストラリアの教会であり、また英国にあっては英国の教会である。まさに世界の教会であり、福音は全人類のためのものである。

そこにおいて、「主は一つ、信仰は一つ、バプテス



マは一つ、すべてのものの父なる神は一つである。」そしてそこに存在する唯一眞の教会は、末日聖徒イエス・キリスト教会であり、主が「全地における唯一眞の生ける教会」と言われたその教会である。

福音それ自体はどこの国でも同じである。救いの計画は1つである。人が日の栄の王国に住むための道は1つしかない。この世を捨て、主イエス・キリストを信じ、バプテスマの門をくぐって神の王国に入り、聖靈の賜を受けて、主の戒めを守ることである。

我々は、あらゆる宗派に属する天父の他の子供を尊重する。我々は彼らに対して、啓示によりもたらされた光と知識に浴し、我々と共に回復された福音の偉大なる祝福を享受する者となることを見る以外に何も望むことはない。

しかし我々には救いの計画がある。我々は福音をふみ行なう。そしてこの福音は世の唯一の希望であり、あらゆる国々にある惡を正し、地に平和をもたらす道となるのである。

さて、このように全世界にわたる教会の会員となったことは、各国の聖徒たちにより大きな責任が課せら



れたということである。

ジョセフ・スミスは、多数の異なった人々を末日聖徒として、いかに治めているのかと問われて、「私は人々に正しい原則を教え、人々は自らを治めるのである。」と答えた。

これは教会において働く際の鉄則である。我々は、会員がどこにあってても正しい原則を学び、自ら治めることを期待する。すべての国の聖徒が福音の完き祝福を受け、その国にあって霊の指導者として立つのを見たいものである。

英国の聖徒は、あらゆる祝福とみたまの賜を受ける権利が与えられており、それは聖徒が受けるにふさわしい資格を持つか否かにかかっている。備えるならば主はこの忠実な聖徒たちからいかなる善きことをも決して差しひかえたまわない。

我々は、教会がこの地において成長し、繁栄することを望むものである。あなた方はすでに主に献堂された神殿を有し、昇栄へとつながる儀式や祝福を受けることができる。

我々は、この国のあらゆるところにシオンのステー

キ部が建てられる日を見たいと思う。そうするためには、英国の人々が、ワード部やステーキ部において奉仕するにふさわしい者とならなければならない。地球のこの恵まれた風土に住む数多くの天父の子供たちの中にあって、伝道の業は、あなた方自身の国の人々により大々的に行なわれるであろう。

我々は、この地における教会の大いなる未来を見ることができ。またあらゆる英国の聖徒たちが、自らの義務を果たし、王国におけるより多くの働きをするための資格を身につけ、救いに必要なあらゆる働きをなすことを望むことができる。全世界の全聖徒が最も必要とするところは、戒めを守り、それによって聖霊と共に生きることである。この過程をたどることにより、全世界の聖徒は1つとなり、主は我々の働きをお喜びになり、み業はいたるところで花開くことであろう。

さて私はあなた方に、否全世界の人々に知ってもらいたい。我々の従事しているこの業は真実である。私はその真実性と神聖さに対して、確かな知識を持っている。これは主のみ業である。この中には主のみ手がある。主はこの教会の頭である。主は祝福として永遠の福音を回復され、信じて律法に従うすべての人に利益をもたらしたもうのである。

私は、この時代に主が語られたことを証する。主のメッセージは、希望と喜びと救いのメッセージである。私はあなた方に約束する。主の光の内に歩み、自己に真実であり、戒めを守るならば、この世における平和と喜び、来たるべき世における永遠の生命はあなた方のものとなるであろう。

イエス・キリストのみ名により申し上げる。

アーメン

このメッセージは、地区総大会において9月29日（日）の午後の集会で話されたものである。

閉 会 の 辞

愛する兄弟姉妹の皆さん。

このすばらしい、記念すべき大会——英国の地における総大会も終わりに近づいた。私は、これが他の国々において開かれるであろう大会のひな形となることを希望している。

我々は主を待ち望み、みたまと真理とにおいて主を礼拝し、主の徳とみたまを分かち合うために集まった。そして、我々は失望することはなかった。主は我々を大いに祝福したまい、主のみたまはあふれんばかりに注ぎ込まれた。証が述べられ、勧告が与えられ、教義が説かれた。これらはすべてみたまを啓発する善きものであった。そしてそれらがこの教会の頭である主により良しとされたことを信じて疑わない。

述べられたすべてのことに対して、私は今証と祝福とをつけ加えたい。教会はこの英国において、今までよりもはるかに大きな割合いで進歩するであろう。

ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、ウィルフォード・ウッドラフ、そしてみたまの声によりこの地に送られた他の使徒や宣教師の時代に、魂の豊かな収穫がこの国にもたらされた。これらの選ばれた人々は、アメリカの聖徒たちと共に集合し、信仰の力と指導力の源泉となったのである。

しかしながら今日、教会は進歩と拡大の新しい時代に移行している。我々は今、福音を地の果てにまでもたらし、すべての国民、すべての人々の中に王国を確立することを求めている。そしてそれは、我々のみ業



を遂行する力にかかっている。

いくつかのシオンのステーキ部、主に献堂された神殿、数え切れないワード部およびステーキ部の建物、効果的な伝道活動、これらはすべて、教会が英国において全盛の時代を迎え、地上の最も善き人々の中において、この地に確立され、強められていることを証明するものである。

我々は、この国のいたるところにあって、福音が一大変化をもたらす清い力となるまでにこの成長が継続するのを見たいと思っている。福音は全人類のためのものであり、教会はいたるところに、あらゆる民族の中に、地の果てまでも確立されていくことだろう。そ



して、それは人の子の再臨以前になされるのである。

ここにおいて、あなた方自身の中に王国を確立するのはあなた方の責任である。末日聖徒は、どこにあるとも世の光とならなければならない。福音は暗闇からもれる一筋の光であり、福音の光を受けるすべての人々は、自らの接触する人々の人生にとって光となり導きとなるのである。

ここ英国にあって、あなた方の責任は、み業が真実であり神聖なものであることの証し人となることである。我々は、あなた方が福音に生き、自らの救いを完うし、あなた方のすばらしい働きを目のあたりにした他の人々が天父の栄光に導かれるよう望むものである。

この大会を閉じるにあたり、もう1度証する。我々が従事するこの業は真実である。これは主の業であり滅ぼされることがない。主はイスラエルの民を教会に集めるためにそのみ手を再び起こしたもうた。今やあらゆる国々から聖徒が群れをなして起こされる時である。

主のみ業は止まることがない。障害を乗り越えることに困難を感じることもあったであろうし、これからもそうだろう。しかし、主のみ業は勝利をもたらし、主の目的は貫かれる。真理は常に終わりまで曲げられることはなく、このみ業は真実なのである。

このみ業に対する、また祖父の弟であるジョセフ・スミスそして、祖父であり、大祝福師であったハイラム・スミスの使命に対する私の感謝は測りしれないものである。彼らは我々が今確立しようとしている教会の基礎を築いた。

私は神が生きたもうこと、イエスがキリストであること、これが主の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会であり、この地上における神の王国であり、この地上の人生における平安を得、来たるべき世における永遠の栄光への望みを得るために来なければならないところであることを知っている。私は約束する。主は心から祈り求め、戒めを守る時に、1人にも多くの人にも祝福を与えられる。そして、私はあなた方の教会に対する献身を祝福し、主が天の窓を開き、あふるばかりの祝福をあなた方の上に注ぎたもうことを祈るものである。

イエス・キリストのみ名により申し上げる。

アーメン

英国への伝道を 顧みて

十二使徒評議員会会員

ヒュー・B・ブラウン長老

英国と英国の島々に住む人々が私の心に特別な位置を今も占めているのははっきりした理由あつてのことである。1904年に若年の宣教師として始まった英国での経験は、私に力と証を与えてきたのである。

教会の統一機関誌の求めにより、いくつかの経験をみなさまにお伝えすることは私の喜びである。

1904年、私は伝道のためにイギリスへ渡った。当時ヨーロッパ伝道部を管理しておられたヒーバー・J・グラント部長は私をノーウィッチに派遣した。ノーウィッチに到着した私は、地方部長によりケンブリッジに送られた。部長は「ドウNZ長老（45才であり、私は21才であつた）といっしょに行つてほしい。ドウNZ長老はあなたをケンブリッジに連れて行つた翌朝、

伝道を終えてそこからフランスへ出立します。ケンブリッジから120マイル以内に末日聖徒はいませんから、あなたひとりになるわけです」と言い、「お聞かせした方がいいと思います。が、ブラウン長老、ケンブリッジに最近までいたモルモンは暴徒に銃口をつきつけられて追い出されましたし、次にモルモンの長老が来たら、決められた町から一歩でも出ると撃ち殺すという話です。それを聞いたら、あなたは喜ばれるに違いないと思いました」と語つた。

私はそのことを聞いてうれしくはなかったが、知つてよかったと思つた。

私たち2人はケンブリッジに到着した。町中の人々はそろつて私たちを出迎えた。彼らは私たちの来ることを聞いていたのであつた。町の人々は反感

を態度に表わしていた。鉄道の駅ではひげをはやした大男が婦人を足もとに横たえて、「お前たちは一夫多妻をはじめめるのかね。どうだね」と叫んだ。それが私たちを迎える歓迎レセプションだったのである。

ドウNZ長老は、翌朝私にちらしのそろえ方を教えてくれたのち、帰つていった。私は金曜日の朝から始めて午前中ずっとちらし配りをしたが、返ってくるのは、私の面前で音をたててしめられる玄関のドアだけであつた。午後配つたが答えは同じく、かなり落胆して帰宅したが、それでも土曜日の朝もちらし配りをしようとした。土曜日も午前中も配り続けたが結果は同じであつた。私は落胆して帰宅し、家へかえつてしまひたいと思つた。主が私をケンブリッジへつかわされたのは



第2次世界大戦が始まり、ヨーロッパから撤退したかつての伝道部長夫妻は、1940年のクリスマスの時節にジョセフ・フィールディング・スミス長老の家で再会した。

後列左からワレス・F・トロント（チェコスロバキア）、A・リチャード・ピーターソン（ノルウェー）、ヒュー・B・ブラウン（英国）、マーク・B・ガーフ（ドイツ）、フランクリン・J・マードック（オランダ）、マイロン・ダグラス・ウッド（西ドイツ）、ガステブ・O・ラーソン（スウェーデン）

中列からマーガレット・ピーターソン、ジョセフ・E・エバンズ（フランス）、フォーン・マッケイ、トーマス・E・マッケイ（スイスドイツ）、ジェシー・エバンズ・スミス、スミス大管長、ノーマ・エバンズ、ジナ・ブラウン

前列左からバー ジニア・ラーソン、クレール・マードック、マーサ・トロント、ジュルトロード・ガーフ、エベリン・ウッド

誤りではなかったかと考えもした。

私はイギリスによくみられる小さな暖炉のわきにすわった。暖炉のかたわらには古めかしい大きな置時計が飾ってあった。自分が哀れに思えてふさぎこんでいると、正面玄関でノックの音が聞こえた。家の女主人が応対に出たが、男の声がして「ここにブラウン長老は住んでいますか」と尋ねた。私は「はい、たしかにいますよ」と心に叫んだ。

女主人は「ええ、彼の部屋は玄関のすぐ前です。さあどうぞ」と答えた。

男は入ってきて言った、「あなたがブラウン長老ですか」。

私は農家に育ったため、自分もきちんと話も下手で動作もスマートではないので、その男の話しぶりに驚きはしなかった。私は「はい、私がブラウ

ン長老です」と答えた。

「あなたがこのちらしをうちの玄関に置いていったんですか」

「はい、そうです」

彼は言った、「先週の日曜に、わたしら家長が17人英国教会をやめたんです。うちにはかなり大きな部屋があるので、みんなして集まったが、みんな家族が大勢なもので、大きな部屋が男女、子供たちで満員なんです。わたしらは1週間ずっとお祈りして、主に新しい牧師様を送って下さいとお願いしよう決めました。今晚家に帰って、またきょうも祈りが聞かれないとがっかりしていたら、ドアの下にちらしがあったもので、主が祈りに答えて下さったと思ったんです。あすの晩、わたしらの所に来て、牧師様になってはくれませんか」

それは私が伝道に来て3日もたたない間に起きたことで、私は、伝道の仕事について何もわからなかったというのに、彼は私を自分たちの牧師に迎えたいと言うのであった。私は向こうみずにも「はい、まいります」という返事をした。そしてその時から集会の時刻までの間に悔改めをした。

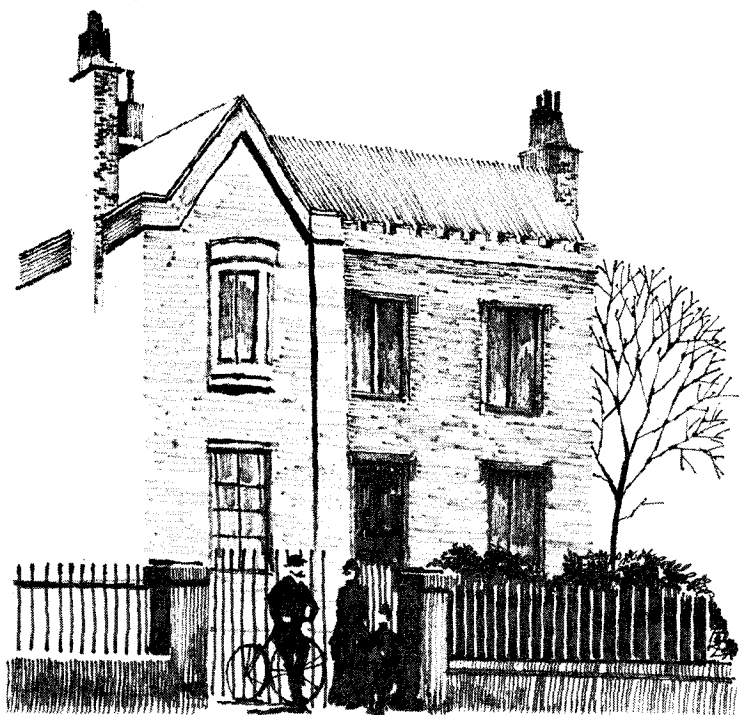
彼が立ち去ると、私の食欲までも取りあげていったかのように、私は急に何も食べたなくなりました。女主人の所へ行って、そのことを告げると、私は部屋に戻ってベッドの準備にかかった。私はベッドのわきにひざまづいた。そしてそれまでの生涯ではじめて神と話を交したのであった。私は神に自分の苦境を話して助けを願った。導きを乞うた。その仕事をとりあげて下さるように祈った。立ちあがっ

てベッドに入ってから眠れないので、また起き出し、再び祈った。そのようなことがひと晩中続いた。私は本当に神と話したのであった。

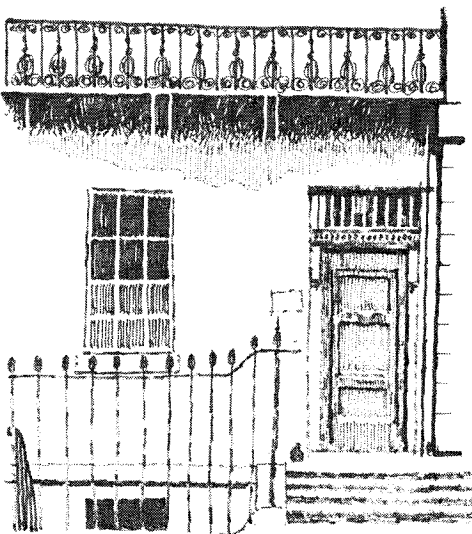
翌日、女主人に朝食をとらないと告げてケンブリッジ大学の構内へ行き、午前中はずっと構内を歩きまわった。昼になったが、女主人に昼食もとりにくいと断わり、午後にもまた散歩を続けた。私の心にあったのはただひとつ、「今晚あの家へ行き、説教をする」、その思いだけであった。

6時に部屋へ帰った私は、椅子に腰かけ、黙想にふけり、あれこれ心配し不思議に思うのであった。(言わせてもらえば、その時以来、私は翌朝死ぬと宣告されている人のかたわらにすわる気持を知ったと思う。その人の感情の動きをかたわらで見守っている時、あの晩の自分の気持を思い起こすのである。あの夜、私はそのように苦しい気持であったと思う。宣告の時は近づいてきた。そしてついに時計の針は6時45分をさした。私は立ちあがって長いプリンス・アルバート・コートをひっかけ、帽子をかぶり、ステッキをとり(当時常用していた)、手袋をはめ、聖書をかかえて、まさに文字通り、自分の身をその建物に運んだ。途中の風景は何も目に入らず、ただそこまでの1本道を歩くだけであった。

私が門に着くとすぐに、前夜会った男が出迎えた。非常にていねいに深いおじぎをすると「お入り下さいませ、先生様」と言った。私は以前そのように呼ばれたことがなかった。中に入っ



ブラウン長老が英国で初めての伝道を開始した頃、英国およびヨーロッパ伝道本部はリバプールのホーリロード10にあった。



1937年、ブラウン長老が伝道部長として英国に再び赴任した時、伝道本部はロンドンゴードン、スクエア5にあった。

て部屋をみわたすと大勢の人でいっぱいであった。彼らは全員起立して新しい牧師に敬意を表わしたが、私はびっくり仰天した。

私は何をしたらよいものかと考える段になって、讃美歌について何か言わなくてはならないと考えた。そこで「高きにさかえて」を歌うよう提案した。とたんにみんなはぼかんとし、いざ歌い始めると聞こえるのはひどい調子のソロというぐあいであった。それから人々を椅子からおりてうしろ向きになってひざまづかせ、私の祈る姿に注目できないようにしたらどうかと考えた。そのように言うと、みんなはうしろを向いてひざまづいた。私もひざまづき、2度目に神と話し始めたのであった。おそれはあとかたもなく私から消え去っていた。私は何も心配してはいなかった。すべてを神にまかせたのであった。

私は他のことに加えてこのように神に祈った。「天のおとうさま、この人々は英国教会を離れました。今晚、真理を聞きに集まっています。私が彼らの求めているものを与えることができるようにとの準備をしなかったのはあなたも御存知ですが、でも神さま、あなたはそれができるただひとりの御方です。私が語る道具となれるならば、よいのですが、さもなくばどうぞその特権を他の人にゆずって下さい。

一同が立ちあがった時、多くの人々は泣いていた。私もそうであった。それから2度目の歌を上手に選び、話が始まった。私は45分間話をした。しか

し、何を言ったかは思い出すことができない。私が語ったのではなく、神が私を通して語られたのである。そのことはのちの出来事が証明している。主は実に力強く話されたため、集会の終りには聴衆がかけつけて私を抱き、手を握りしめて、「これを私たちは待っていたんです。あなたが来て下さったことを神様に感謝します」と言った。

私は自身の身をひきずるようにして集会にやってきたが、その夜の帰り道は、神が私の手をひいて人に不可能な仕事をさせて下さったことを思い、足を地につけるのがやっとなような有様であった。

それから3ヶ月のうちに、話を聞いた男女、子供は全員教会員となった。転勤のため、私が、自分でバプテスマを施すことはできなかったがひとり残らず教会に加わったのである。

私は最近そのうちの何人かと再会した。今は年老いているが、あれ以来、神に話しかけられたあのような集会は経験がないと言っている。

そのイギリスへの、最初の伝道の間に、私はグラント伝道部長のもとで貴重な体験をした。私は1905年に腎臓結石をわずらったが、痛みがあまりに激しいため、医者にかへ帰って治療を受けないと死んでしまうと忠告された。

グラント伝道部長はそのことを聞き特別にリバプールから私が働いていたノーウィッチへ来て下さり、解任をするので家へ帰るようにと指示された。

それを聞いて私はがっかりしたが、

グラント伝道部長に「もし、伝道部長が祝福して下さるなら、きっと家に帰らなくてすむと思います。よくなるに違いありません」と話した。

グラント伝道部長は「あなたにそのような信仰があるならば、そのようになるでしょう」と答えた。

彼は私を祝福し、私はそれ以後腎臓結石の痛みは感じなくなった。

第一次世界大戦の時、私はカナダ陸軍の将校としてイギリスに渡った。そしてその後しばらくたった1937年に英国伝道部を管理するよう召され、その時は大管長であったグラント大管長と共にイギリスへ赴いた。前伝道部長のジョセフ・J・キャノンと共に北部イギリスへ行き、英国最初の福音伝道地プレストンを訪れた。

我々は100年前に初めてバプテスマがとり行なわれたリバプールのその場所へ行き、河岸で多くの人と共に霊的な集会を開いた。大管長会のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア長老および大管長会書記のジョセフ・アンダーソンが参加し、話をされた。

プレストンで働いている宣教師たちと、英国伝道部歴史に名高いかの「闘鶏場」、また初期の時代に親切にも宣教師たちに提供されたヴォークスホール礼拝堂で集会を開いたこともあった。

ロンドンへ引き返した私たちは、ゴードン・スクエア5の英国伝道本部へ行き、正面階段の所でキャノン前伝道部長から建物の鍵、ひるがえせば英国伝道部の鍵を手渡されたのであった。

回復

お

1939年の初めには戦争の間近なことが明るみに出ていたので、合衆国汽船会社と、大西洋航路に100座席をできれば一度に、必要となった時に利用できる予約をとった。戦争勃発の日に電話を入れてその100座席を頼んだが、会社の返事は1万人も列を作っているのだが予約に従い席をあけましようとのことであった。

そこで全宣教師をロンドンに呼び戻し、乗船を待つ3日の間集会を開いた。そして、私と5人の宣教師がしばらくとどまる以外は、全員がその船で合衆国へ向かった。

戦争は必至であったため、大事をとり、女性宣教師はその30日前にすでにイギリスを離れていた。ブラウン姉妹と子供たちも彼女たちと共に合衆国へ帰っていた。

そのようにして私と長老たち5人はイギリスに残った。長老たちが乗ったひとつ前の船は、大西洋で水雷により撃沈され、乗船者全員死亡したのであった。

その時は実に心を労した時期であった。全長老を船に乗せることは私の任務であったため、自分自身心からへりくだった時期であった。

私は1940年2月にイギリスをあとにした。それから2年後に、まだ戦争のさなかではあったがイギリスへ戻るようにと言われた。その時の責任には、軍人担当者としての仕事も含まれていた。

その時はロンドンが激しい空襲に見

舞われていた時であったので、我々は興味深い経験をいくつかした。伝道本部のまわりの多くの建物は爆弾で破壊され、ゴードン・スクエア5の伝道本部も爆撃を受けたが、新しい伝道本部がナイチンゲール通り149に移っていた時であった。

ある日、伝道本部の裏庭にいた時に、私は飛行機のような音を耳にした。その飛行機が家からわずか3丁ほどしか離れていない鉄道中心地のあたりに来た時、突然バリバリという音かして墜落し、本部から通りをへだてた15軒の家がつぶれた。

その飛行機のエンジンの音がやむのを聞いた時、私は何が起るかを直感した、と同時に地面にすいよせられるような衝撃を受けてたおれてしまった。その爆発音のため本部の窓という窓は全部割れてしまった。

我々が住んでいた地域への爆撃があまりに激しくなったため、ついに本部はバーミンガムに移ることとなった。

戦争以後、英国、アイルランド、スコットランド、ウェールズの教会に起きた出来事は、その仕事か神の仕事であることの大きな証である。私が伝道を始めた1904年当時、英国諸島にやがて7つの伝道部と6つのシオンのステーク部ができるなどとは、だれが想像したことであろうか。主はたしかにその仕事を恵みたもうておられるのである。



七十人最高評議員会会員

A・セオドア・タトル

愛する兄弟姉妹の皆様、あなた方はこの会に集い、タバナクル・クワイアーのすばらしいコーラスに耳を傾け、またこの聖日に礼拝を捧げておられる。さらに末日聖徒イエス・キリスト教会について深く知りたいと思っていられっしゃる。私は少しの間、この教会が教えていることを説明してみたいと

の とずれ



思う。

それは回復された福音のおとずれである。回復と言ったのは、末日聖徒イエス・キリスト教会が回復された教会だからである。組織も権能も、救い主が生きておられた時に定められたものと同じである。しかし、この「末日聖徒イエス・キリスト教会」は昔の聖徒たちのイエス・キリスト教会とは異なる。すなわち主の言われる「時満ちたる神権の時代」あるいは最後の神権時代に建てられたのである。（教義と聖

約112：30参照）

私たちの教えのかしら石となる方はキリストと呼ばれる神の御子である。その御方は永遠の父なる神の御子であり、不死不滅の体あるいは生きる力を父なる神より受け継いでいる。またマリヤの息子として死すべき体と死ぬ力とを受けた。このため主は言われたのである。「だれかが、わたしからそれ（私の命）を取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。……これはわたしの父から授かっ

た定めである。」（ヨハネ10：18）

神の御子としてのイエスには、全人類の罪を贖う力があった。イエスは死の縄目を解かれ、すべてに先がけてよみがえられ、復活の初穂となったのである。（Ⅰコリント15：20参照）墓からよみがえった主はこの世の体をとられた。そして聖典には次のように記されている。「イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現われて、神の国

のことを語られた。……こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ……白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて、言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。』（使徒1：3、9－11）

救いはキリストの御手にある。すなわちキリスト御自身においてまたキリストの贖いと復活により、私たちはそのおきてと儀式とを守ることによって救われるのである。（信仰箇条第3条参照）

イエス・キリストは全世界の中心となる御方である。そして予言されたよ



うに時の絶頂に来られた。旧約聖書で予言者たちは、その来臨を予言している。主はアダムに、メシヤが訪れるであろうと約束され、犠牲の律法がアダムとその子孫に与えられた。すなわちこれは神の子羊の死を象徴するものであった。この犠牲については、過ぎ越しの祭りでモーセが詳しく述べている。殺される小羊は傷のないもので、1歳の雄でなければならない。またその血は流され、骨を折ってはならない

となっている（出エジプト12：5、46参照）。この儀式は、人々の心を神の子羊が人の罪の犠牲となる時に向けさせるものであった。父なる神が生みたまひし独り子を犠牲として捧げる時、それは血を流す犠牲の終りであった。

そこで救い主は私たちに贖いの犠牲を思い起こさせるため、聖餐の儀式を設けられた。

「……主イエスは、……パンをとり感謝してこれをさき、そして言われた『これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』食事のち、杯をも同じようにして言われた、『この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい。』だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。」（Iコリント11：23～26）

私たちはキリストが神の御子であることを明らかにしている。そしてキリストが現在も生きたまい、予言されたように再降臨されることを知っている。

救い主が十二使徒を召して御自身の教会を建てられた後、間もなくこの教会は予言の通りしだいに背教へ陥っていった。（Iニエファイ15：13）儀式を行うための神権の権能は失なわれ、教会は無信仰に陥った。残された組織も政治的な圧力で侵され、やがて完全な背教が起こった。この背教が予言されていたように、回復の時、すなわち「万物更新の時」も予言されていた。（使徒3：21）

1820年の春、15歳にも満たないひと

りの少年が「深刻な反省を促がされ」て、今あるうちの教会でどれかが正しいとしたら、それはどの教会なのかと熱心に考えていた。（ジョセフ・スミス2：8参照）そして彼は聖典にある「神に願い求めるがよい」という言葉に従った。（ヤコブ1：5）彼は次のように記している。

「……私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にふり注いだ。……そしてその光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」（ジョセフ・スミス2：16－17）

天父と御子が親しく現われたもうたというこの驚くべき示現で、この御二方の存在が今一度明らかにされた。すなわち御二方が生きたまい、それぞれ別個の御方であって私たちを愛されていることが明らかになった。

この示現に続き、ジョセフ・スミスは天の使いたちからさらに多くの権能と祝福とを授けられた。彼は予言をし福音の原則を教え、そして、翻訳をした。また古代と現代とに関する聖典をもたらし、神殿や都市を建設した。彼はキリストについて啓示する者であり神のしもべとして権能を与えられた者であった。予言者として完全な者となるために、すべてのことをなし遂げた人でもあった。やがてジョセフは「王国の鍵」（教義と聖約81：2、97：14参照）を授けられ、この使徒としての権能によって再び完全な権能を持つ教

会を建てた。主はジョセフに向かい次のように言われた。「今の代の人々には、汝によりてわが言を与うべし。」（教義と聖約5：10）

いかなる神権時代においても、ジョセフ・スミスをしる偉大な予言者はいなかった。彼は古代の金版からモルモン経を翻訳した。それは、イエスがキリストであると証する今1つの本であった。このモルモン経について主は言っておられる。「また彼はその書を正にわが命じたる部分を翻訳したり、而してこの事は汝の主、汝の神生きたもうが如く真実なり」（教義と聖約17：6）

ヴァーモントに生まれ、ニューイングランドという辺境地帯で育ちしつけを受けた一介の少年が予言者であったと言っても、それがすぐに人に受け入れられるようなことではないことを私たちはよく知っている。しかし人がすぐに受け入れようが受け入れまいが、事実なのである。ジョセフ・スミスは予言者であり、これに対しいかなる悪口や中傷をもってしても事実には立ち回することはできない。自分の永遠の魂の幸福を願う者はすべて、この福音に耳を傾ける必要がある。そしてジョセフ・スミスの時代以後に生を受けた者は、天父のみもとに立ち返るために彼を神の予言者と認めざるを得ないのである。

もしあなたがジョセフ・スミスの神聖な召しについて知らないとしたら、恐らくそのことについて深く考えたことがないためであろう。モルモン経と彼が回復した福音について深く考えている人々のうち、毎日200名以上の人々がジョセフは真に神の予言者であるという証を得ている。彼は殉教をしたこ

とにより、その証を自身の血で結び固めたのである。

私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であり、その頭として今日もなお生ける予言者がいることを宣言するものである。

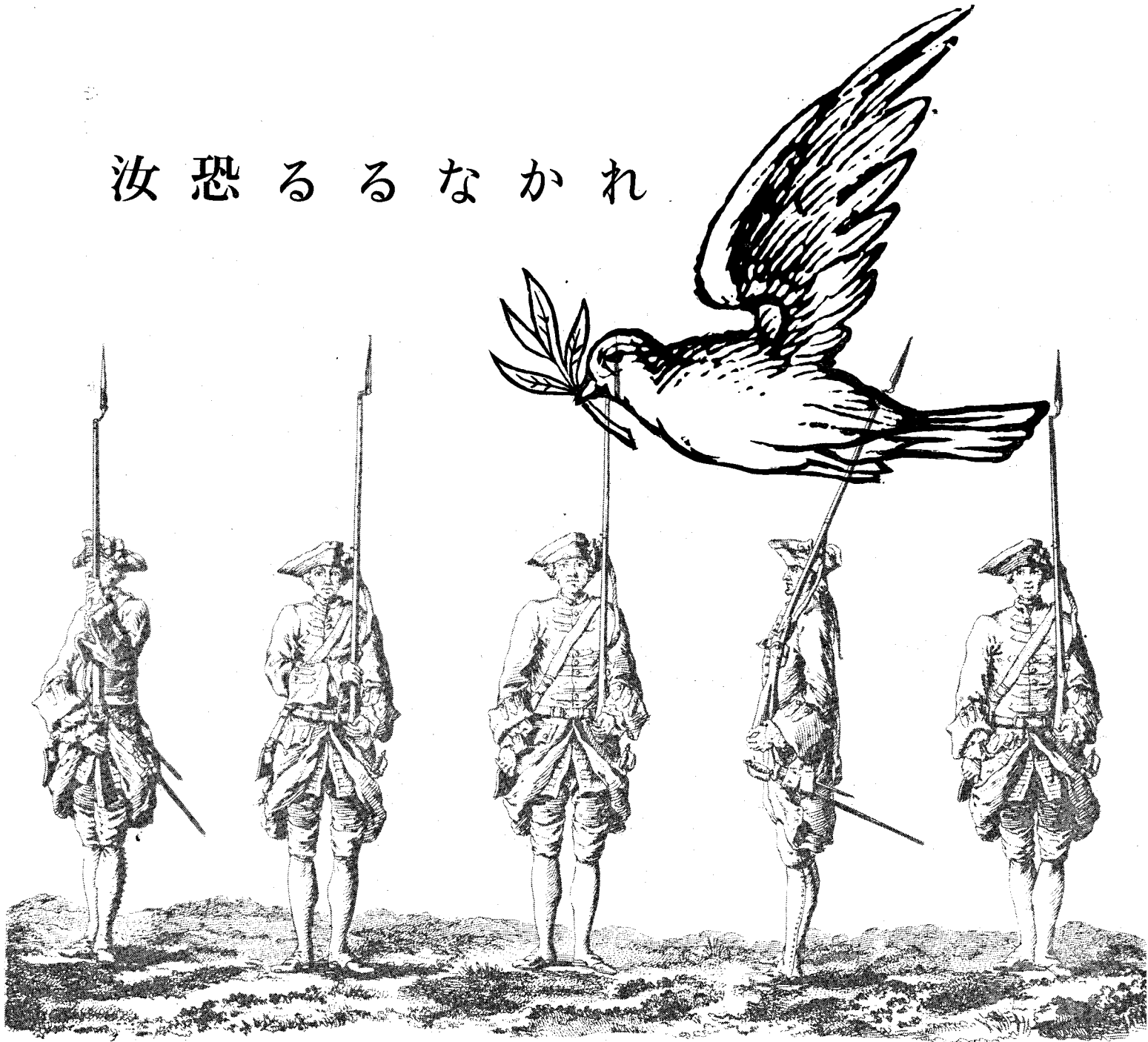
主御自身もこの教会について、「全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶこの教会」と言っておられる。（教義と聖約1：30）

現在の予言者は、主の業を導き、主の代弁者となるべく主から選ばれた人である。今や95歳という高齢を迎えているが、主は予言者がいくつでなければならないなど決して言っておられない。ましてや身長について、あるいは何か特別な学位を持っている人などとは言われなかった。しかし主は、予言者は「神に召された人」であり、神から権能を授けられた人でなければならないと明らかにされたのである。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長がふさわしい人であるというのは、そのように召され聖任されたからである。彼がふつうの人と同じであるというのも本当である。楽しい時には笑い、針で刺せば血も出るであろう。人の悲しみにあっては、大きなやさしい心を震わせて泣くに違いない。病気や苦痛も受けるであろう。しかし、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長にはひとつだけ違ったところがある。彼は神の予言者なのである。私は彼を知る者として、彼を心から愛している。彼はつねに悪の激しい力にあいながらも、義なる働きを送ってきた人である。そしてすべての悪にうち勝ってきた。主は御自身の予言者という名誉ある召しを彼に与えられた。また私は彼のかたわらで忠実に働く副

管長たちを愛している。十二使徒をそしてすべての兄弟姉妹を心から愛している。

さて、この教会の行く末はどうであろうか。さらに前進し、決して道を誤まることはないであろう。さらに発展を続け、やがて全地に満ちるに違いない。キリストを頭にいただき、教会の指導者たちとたえず心を交わせることにより、私たちは神が命じられたようにみ業を進めていくのである。この教会は天父のすべての子供たちに福音のおとずれを広めるであろう。それは生ける者と死んだ者とを救う。この教会は中傷を受け、多くの攻撃を受けるであろう。多くの者が疑い、背教するかもしれない。しかし、心の義なる者と正直なる者は囲いの中へ連れてこられ、昇栄に至る道を歩むであろう。多くの教会があるのに、そこに人々がいないことを不思議に思っている人がいる。そしてこの教会が発展し、成長している訳を考えている。私たちにはこのことが納得いくのである。私たちは古代において背教があり、近代において真の福音の回復があったことを知っている。末日聖徒イエス・キリスト教会は権能と権威を有し、生ける予言者を頭として組織されたことを、またその大いなる将来を知っている。そして私たちはその将来を実現するために、喜んで働く者である。キリストは私たちの頭である。イエス・キリストの福音に示された真理がやがて必ず勝利をおさめることを信じている。私たちは成功するであろう。この大いなる将来を実現するため、心ある人はすべて私たちの群に加わっていただきたい。イエス・キリストの御名により。アーメン。

汝 恐 る る な か れ



十二使徒評議員会補助

アルビン・R・ダイヤー

その昔エルサレムにおいてペンテコステ（聖霊五旬節）の日に、使徒ペテロは人々に向かって次のように言った。すでに人々に宣べ伝えられていたイエス・キリストが再臨されるであろうが、その日は万物更新すなわち回復の時まで延ばされると（使徒3：20, 21参照），またこのことは世の初めより約束されていたことであると言った。今日末日聖徒イエス・キリスト教会として知られているキリストの教会の組織が

この回復の1つである。

本日私たちは、この神権時代における141年前にキリストの教会の組織に起こったことについて確信と証を再び強めている。その時、集められた人々に向かい主は、福音の回復に関してしもペジョセフ・スミスを通してすでに成し遂げられたことについて語られた。主は言われた。

「而して、神は誠命を下して彼に靈感を与え、前より備え

人の贖いと救いはこの神権時代において絶頂を迎える

たりし方法により、モルモン経を翻訳するために天より能力を彼に与えたり。この書の中には、墮落したる或る民の記録と、異邦人並びに、ユダヤ人に与うるイエス・キリストの完全なる福音とを載せたり。またこの書は靈感によりて与えられ、天の使たちの導きと恵みによりて他の人々に対して確認され、この人々によりて世に宣べ伝えられ聖典の真実なることと、神は人々に真に靈感を与えて古えの代と同じくまた今の代にも神の聖き業に人々を召すことを世に証す。これを以て、また神は昨日も今日も世々限りなく同じ神にてあることを示すなり。アーメン。(教義と聖約20：7-12)

キリストの教会はあらゆる神権時代の最後であるこの神権時代に回復された。主はこれを「時満ちたる神権の時代」と呼ばれた。(教義と聖約112：30) 完全に回復がなされる時、アダムの時代から始まるすべての神権時代は鍵と原則と知識をすべて結合される。そしてこの最後の神権時代は、主イエス・キリストの再降臨と人が地上で死すべき肉体として存在する時代の終りに備える意味で、最後の事柄に関する教義をあらかじめ教えている。

人の子の再臨が近いという問題は、現在私たちの時代にある多くのことにかかっていると思う。この問題を考える際に私はよく3つのことについて思いをめぐらす。まず第1の事柄は次の主のみことばに表わされている。「されど、その日その時を知る者なし。天にある神の使たちも知らず、ただわが父のみ知りたもう。」(ジョセフ・スミス1：40)

しかしこの大いなる出来事が近いことを示すしはある。すなわち第2に、たとえば私たちはこの最後の神権時代に生きる者として、もはや次の神権時代はないことを心に銘記しなければならない。そして神が福音の計画により地上の人間の贖いと救いのために計画されているすべてのことが、この最後の神権時代に絶頂を迎えるのである。事実、主は今の時代を特に準備の時となさっておられる。教会の初期の時代において、主は啓示を通して次のように教えられた。

「主に祈り、聖き御名を唱え、神の驚嘆すべき御業を民の

中に知らしめよ。主の御名を呼びてこの世に神の王国を来らせ、世に住める人々をしてこれを受け、来るべき時代の備えを為さしめよ。その時、人の子は地上に建てらるべき神の王国にかなうため、彼の栄光に輝く衣を召されて天の中より降りたもうべし。これを以て、願わくは天の王国の来らんためまず神の王国を出で行かせたまえ。神よ、かくして天に於ける如く、地に於ても栄光あらせたまえ。またかくして、汝の敵を征服したまえ。誉と能力と栄光とは、ときはかきはに神のものなればなり。アーメン」(教義と聖約65：4-6)

主の時の順序として、この神権時代の絶頂は栄光ある人の子の来臨に見い出すことができる。

第3に私が考えることは、異邦人の時代に関することである。それは今の時代であり、福音は地上にある異邦人の国々に宣べ伝えられつつあって、もし彼らが召しに従順であれば群に加わり、イスラエルの家の中に数えられるのである。(1ニーファイ14：2参照)

主はジョセフ・スミスに与えた啓示の中で再降臨が近いことに関連してこの異邦人の時について次のように言われた。

「異邦人の時始まるに及び、暗きに坐する者の中に光輝やき出でん、この光はわが完全なる福音なりとす。」(教義と聖約45：28)

しかし福音を受け入れない者が多いことを、啓示は続けて述べている。

「されど彼らはその光を受け入れず。そは、彼ら光を認めざれば、人の教えの故によりて、われにこころを背くればなり。」(教義と聖約45：29)

そして福音が異邦人にもたらされる時を知る方法として、同じく啓示を引用しよう。

「この光の輝き初むる時に起こることは、汝らに示さんとする一つのたとえの如くなるべし。汝ら、いちじくの木を眺めてこれを見るに汝らの眼を以てす。而して、若芽萌え出てその葉なお柔かなるや夏すでに近しと汝らは言う。人々すべてこれらのこと起るを見るその日に於て、誠にかくの如く

ならん。その時人々時すでに迫れるを知るべし。」(教義と聖約45:36-38)

現世の終りに関する恐ろしい荒廃した状態については、多くの予言者によって語られており、いくつかは私たちが現在目にしているところである。終りの日に関して弟子たちから次のように尋ねられた時の主のことばは、非常にはっきりしたものであった。



「われらに告げたまえ。この宮とユダヤ人の滅亡とに就きて、汝の言いたまいしこれらのことは何時あるか。また汝の来りたもうと、世の終り……とには何の前兆あるか。」(ジョセフ・スミス1:4)

これに対し主はユダヤ人に起こるであろう事柄について明確な答えを示され、さらに終りの時の状態について注意を与えられた。主のみことばを1部記してみよう。

「而して彼ら、戦争と戦争の噂とを聞くべし。見よ、われ

わが選民のために語るは、民は民に国は国に逆らいて立ち、また飢饉、疫病、地震とところどころにあらんためなり。また、不法多くなるが故に多くの者の愛ひややかにならん。されど、打ち勝たれざる者は救わるべし。また王国のこの福音はすべての国民に証をなさんため、全世界に宣べ伝えられん。而して後に、終りすなわち悪しき者の滅亡は至るべし。」(ジョセフ・スミス1:28-31)

落着きと希望を与えることで聖徒たちの心を強めるために主は啓示を通して次の戒めを与えられた。そしてこの戒めの言葉により、私の話を閉じようと思う。

「見よ、こは一つの比喩を以て汝らに語るところなれど、正にわれ在るが如く真なり。われ汝らに向いて言わん、汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず。われ、また汝らに告ぐ、汝らの敵は密室に在りて汝らの生命をうかがえり。汝らは遠国に戦あることを聞けば、間もなく大いなる戦遠国にあらんとする。されど汝らは己が国の人心を知らざるなり。われは汝らの祈りによりてこれらのことを示すなり。この故に汝らの胸に智慧を貯えよ。人間の邪悪は世を震い動すよりも大いなる声を以て汝らの耳に語るやり方にて、その邪悪によりこれらのことを汝らに明らかにするおそれあればなり。されど、もし汝らに備えあらば怖ることなからん。」(教義と聖約38:27-30)

汝恐れるなかれ。なぜなら主が別の時に言われたように、忠実なる聖徒たちの群れは来るべき恐ろしい状態の避け所となるからである。また私たちが欺かれまいと主はすべてのことに規範を与えられた。それはサタンがあまねくこの地に在り、出で行きて諸々の国民を欺くためである。(教義と聖約52:14参照)

兄弟姉妹、私は神が生きたもうことを、そしてイエスがキリストであることを知っている。回復されたみことばが真実であり、もし忠実であれば、私たちは起こるべきことを恐れる必要のないことをも知っている。これらのことをイエス・キリストの御名により申し上げる。アーメン。

宣べ伝えて いることの 実践

十二使徒評議員会補助

マリオン・D・ハックス



今朝ほど素晴らしい日曜日の説教をなさったヒンクレー兄弟に感謝しながら、私は2人の人について思い出したことを話した。ひとりには素晴らしい説教をしたばかりの人であった。もうひとりには彼に感謝と称賛の言葉を送りながらこう言った。「素晴らしいお話でした。私もあのような話ができるとよいのですが。」そこで相手の人が言った。「できますよ。」

私は、多くの人々がこの大会で聞いた素晴らしい説教をいつかするであろうと思っている。

今朝の私のテーマは、私たちが宣べ伝えていることの実践についてである。すべての人にこの話を理解していただけるであろうと思っている。先週の日曜日、私はローガンでひとりの優秀な教師から、彼女のクラスの少女とのやりとりについて聞かされた。その教師が少女に、「宣べ伝えることを実践する、つまりいつも行なうとはどういうことですか」と尋ねると、少女は

次のように答えた。「それは、先生が教会でお話する前に、そのお話を紙に書いてくり返し言うてみることです。」

この宣べ伝えることの実践についてもっと一般的な解釈をさらにいくつかあげてみたいと思う。

先日の夜、私は病院に重病の妹を見舞った。彼女の夫と子供たちはベッドを囲み、外国伝道から戻ったばかりの4番目の息子の司会で家庭の夕べを開いているところであった。私も早速それに加わった。そして家に帰る道すがら、私はそのような模範を神に感謝しうれしきで一杯だった。それから家に着いて待っていた家族と共に、私たちが宣べ伝えていることをさらに実践することができるようにと祈った。

私は今朝も彼女を見舞い、共に主に祈ってきた。そしてその厳粛な出来事から得た霊性は私にとっての証となっているのである。

私たちは実践しなければならない、あるいはもっと効果的に実践しなければ

ならないとはどういうことなのであろうか。私たちの務めとは？私たちは何を戒められているのだろうか。そして何を宣べ伝えるのか。

私たちが宣べ伝えている中で大切なことは、両親は子供を愛し教え、そして尊敬に値する模範を示すことである。また子供は両親を敬い、両親に従うことである。両親は互いに愛し合い、信頼し合わなければならない。子供は、ベンジャミン王が言ったように「互いに愛し互いに助けねばならない」のである。(モーサヤ4:15参照) また私たちは毎週の家庭の夕べに共に集い、家族の祈りをし、支払うべき什分の一について共に話し合い、さらに家族揃って聖餐会に集って主を礼拝するように教えられている。共に断食をし、助けを必要としている人々のためにその断食に相当する金額を監督に渡すように言われている。

私たちは家族でホーム・ティーチャーを心から迎え、その質問に答え指示

時のあるうちに、
家族と家庭の祝福を受けよ



に従う。教会の信ずる高潔な家族像を目標に、共に学び、共に働き、楽しい食事のひとときを過ごす必要がある。そして学校、教会、地域社会において互いを支持し合う必要がある。私たちの慣習や伝統が後の世代にも受け継がれるよう共に計画を立てて実行するのである。

私たちはすべてこれらのことをするように教えられ、勧められている。

しかしながら今朝私が話したいと思っていることは、神聖にして大切なことではあるが、決して義務あるいは戒め、勧告についてではない。むしろ勧めであり、機会や特権、愛、すなわち家族と家庭の祝福を受ける時のあるうちに感謝してその時を過ごすことについてである。

私たちが受けることのできる喜び、私たちのためにある喜び、つまり家庭以外にあるいは家族以外に決して経験することのできない喜びを、私たちは一体どの程度逃しているであろうか。

私たちが口にする音楽を考えてみると教えられることが実に多い。子供たちはよく次のように歌っている。「神の子です、私やあなた、いろんなお恵み感謝します。私を助けて導いて、いつかみもとへ行けるように。」そして

今朝も証をこめて歌われたように、すばらしい若人たちは歌っている。「山の如く強く われら立つは 父が沃土となせし巖 生ける神を信ずる 名誉と徳の岩……」扶助協会の母親たちのコーラスは偉大なる調べ「愛しあへ」を奏で、私たちはみな「家庭の中に」を歌う。

私たちと神、そして互いのきずなは永遠である。家庭はこの世の事柄とわずらいからの避け所であり、家族は私たちの永遠の希望の核心である。また私たちの愛は、創造的で限りなく増しつつあるひとつの結合と私たちとを結ぶ柔らかな糸である。私たちはこれらのことを信じ、宣べ伝えてはいるが、この教えから得られる祝福を実生活で家庭で、あるいは家族で受けられるよう、さらに努力できるだろうか。時のあるうちに、私たちが宣べ伝えていることをもっと実践できるであろうか。

マシュー・アーノルド（英国の作家詩人、1822—1888）は「エトナ山上の

エンパドクレス」で次のように書いている。

「私たちは心の平安を持てるであろう、だがしかし中を見ることはできない」

私がこれから話す幸せな1例と2つの話を聞きながら、しばらくの間自分自身の心を、家庭を、そして家族をよく見つめていただきたい。

約12年も前のこと、ある朝早く医者をしている親友から電話がかかってきた。彼の話では、生まれたばかりで必死に生命と戦っている幼ない息子のために、一緒に儀式を施して欲しいので病院に来てくれということであった。私たちは保育器の中に手を入れ、その小さな男の子の上にのせて祈った。それから腰をおろし、母親と共に赤ん坊の容態が回復するのを待った。私たちがそこにいと小児科医がやってきて、うまくいきそうだと言った。彼はこの困難を強い不屈の精神で立派に切り抜けたのであった。前のように両足



は丈夫ではないが、いつか赤ん坊のラリーが大きくなった時に生きている祝福を思い起こさせるに違いない。

最近この少年の兄が、名誉ある外国伝道の召しを終えて帰ってきた。空港での家族の再会を見ていたひとりの叔父が、感激してラリーに手紙を送ってきた。私も恵まれてこの手紙を読ませてもらい、ラリーにこの手紙を引用してもよいかと尋ねてその許可が得られた次第である。私は、執事の職に聖任されたばかりの末日聖徒の少年が、宣べ伝えていることを懸命に実践しようとしている姿をお知らせしたいと思う。

手紙はこう書かれてあった。「愛するラリー。昨日私はヒッピーの息に酔ったわけでもないのに、涙が出てしまった。それどころか、生涯忘れることのできない思い出となったのだ。

私が君に涙と思い出のお礼を言うのは至極当然のことなのだよ。ラリー・エルスワースという素晴らしい少年が

くれた涙と思い出にね。そしてきっとこの少年はそんなことに気がついていないだろうし、お礼を欲しいとも思っていないだろう。

君が、遠いチリーという国での伝道から帰ってくるお兄さんを待ちながらじっと立っていた時のことだ。だれよりも君はこの2年間で心待ちにしていたんだね。そして君はただじっと待ち続けているせいか、緊張で顔が少し青ざめて真剣な顔つきをしていたよ。

お兄さんを見つけた時の君の顔ときたら、パッと光り輝やいたようだった。まるで暗い部屋にパッと明りがついたようだった。

君が2年の間小銭を少しずつためて、お兄さんのために30ドルはする上等のバスケットボールを買ったという話をだれかがしていたっけ。お兄さんのことが大好きだからだと聞いたよ。だれにも助けてもらわなかったということだね。君の考えで決めた贈り物だ。おこづかいを使わないで、大好き

な人のために使うなんて素晴らしいことだ。

私は、君が物も言わないでお兄さんの横に立ち、うれしそうにお兄さんの顔を見上げ、その足につかまっていたのをじっと見ていたよ。お兄さんは帰ってきたのだね。

私はこの2人の少年に特別な愛と称讃を送りたい。兄はたったひとりで善をなすために遠くの地へ行き、弟は兄を思い出しながら計画を立てて待っていたのだ。

ラリー、君は素晴らしい少年だ。私は君が大きな心とやさしい心づかいを持っており、将来偉大な人になると信じている。君より楽にこの世に生まれてきたために、速く走ったり、高く飛んだり、遠くまで歩いたり、長いこと遊んでも平気な人が多くいるだろう。しかしそれはその人たちの手がからではない。君には感謝すべきことがたくさんある。なぜなら天のお父さまは愛する息子たちの中から君に生命を与えて

下さり、他とまったく違った家庭に住まわせて下さったのだよ。ラリーありがとう。年をとった口のきけない叔父さんは君を見ていて、昨日すばらしいことを学んだよ。叔父さんのディックより。」

2～3週間前、私はあるステーキ部長が人々に強い家族を作りなさいと戒めているのを耳にした。それはすばらしい説教であった。特に私の心に残ったのは、家族でスキーに行った話で、4歳の子供が一緒になって山に登り、すべり下りたがったことだった。ところが現地に着いてみると、その子供の年令と経験にしては少しばかりきつい場所で、ゆっくりとすべらなければならない所ばかりであった。初め母親が4歳になるその男の子について丘を下り始めたが、10代の息子がひとりでさっそうとすべるのを止めて、自分から進んでやさしく弟のめんどろを見ながらすべったということだった。彼は上手にすべるにもかかわらず、それをよろこんで犠牲にして愛と思いやりというすばらしい精神を家族に与えたのだった。

宣べ伝えていることを立派に実践している人は数多くいるが、私は今ひとりの人について述べてみたいと思う。ここ数年間というもの、ホーム・ティーチャーとして定期的に私の家庭を訪問している特別な人がいる。彼は、手紙に出てくるラリーのように、生まれた時に障害があって今も大きな問題を抱えている息子連れて来ていた。私の家に来ると、この父子はたいい並んで座わり、手をそっと握ったり腕をからませたりしている。また手をひざの上に置いたりして、言葉を交わさないでも愛を伝え、心を交わせ合っている。皆さんはこのような親子をほんと

うにうらやましいと思うに違いない。

次にあげるのは、家庭に調和と幸せをもたらすもの、すなわち音楽の簡単な和音のようなものである。親切、思いやり、礼儀、関心、笑い、無私の心、祈り、思慮、互いのために何かをすること、互いに許し合うこと、支持し合うこと、愛し合うこと。これらはすべて楽しく永遠の思い出となる家族という交響曲を形造る音符にたとえることができる。

もし家族がそこにある大切な人間の価値を失ない、単なる家族という形だけになり下るとしたら、何のために家族があるのかわからなくなってしまふ。現代がいかに変わりつつある世の中だとは言え、最も大切な目的すなわち家族が精神的、霊的な必要を互いに満たすということは残っているのである。ある人が書いている。どこにあって、社会は「家族を中心の糸として織られた」織物であると。家庭、家族、そして愛には、個人生活と社会生活を遂行するための力がある。事実この力によって荒れた世の中が救われ、限らない平安がもたらされるのである。子供たちは守られ、大切に育てられなければならない。そして家庭でこそ、子供たちは生きていくうえで必要な愛と導きを受けることができ、真の愛を持った両親こそ子供の必要を満たすことができる。しかしそれは宣べ伝えられたり口に出された愛ではなく、時間をかけ、努力し、辛抱強く耳を傾けるといふ愛であり、惜しげなく与え、寛大な心で許し、「家庭生活における人間関係にうるおいと美をもたらす喜びのもととなる」愛である。

しかしきょう私はこれらのことを権威によって、あるいは権威に基づいて話しているのではなく、権威をもって

話していることをつけ加えておきたい。なぜならそれが真実であることを私自身よく知っているからである。実際に経験し、実践し、その状況にあるが故に、真実だとわかるのである。

私が育った家庭は、物質的にはあまり恵まれていたとは言えないが、今まで述べてきたような愛のある家庭であった。そして現在幸福に暮している私の家庭も同じようであって欲しいと祈っている。もちろん私がきょう話してきたことは、私自身と私の家庭のためでもあるのだが、それは私たちにはさらに進歩を求めるといふ特権および祝福があるからである。私はこのことを主に感謝している。人生で受ける次のような言葉以上にすばらしい贈り物はないのではないだろうか。私はおそろくないと思う。6才の子が手紙に書いた言葉「ねえお母さん、ぼくお母さんのこと大好きだよ。」あるいは10才の子供から言われた言葉「お父さんはぼくの友達です。永遠にお父さんを愛します。」そして父母からすばらしい息子や娘に宛てた言葉「君を心から愛し、誇りに思っています。」

このような言葉をきいて、私たちはそれにふさわしくありたいと願わずにいられようか。

主は言われた。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34参照)

主は私たち親や子が、時のあるうちに家庭や家族で宣べ伝えていることを実践する機会を無にしないよう助けて下さっている。

私は福音が真実であり、主が教えたもうたように家庭における人間関係についても述べられていることを知っている。イエス・キリストの御名によりアーメン。

日本の お友だち

世界の多くの国と同じように、日本の2月はとても寒いです。日本の一番北にある北海道の札幌の街では、子供もおとなも年に一度の「雪まつり」を楽しみに待っているため寒くなると大へん喜びます。雪の像は、恐竜や日本の昔の人々の形をしていて高さはやく11メートルまでに限られています。近くの自衛隊の基地から隊員たちがやって来て、大きな雪の像を作るのを手伝います。「雪まつり」のあいだ中、街はまるでまばゆいほど白いおとぎの国のように見えます。

日本は太平洋に浮かぶ4つの大きな島、九州、本州、四国、北海道とその他多くの小さな島々からできています。そして、1億人以上の人々が住んでいて、「日の出ずる国」にっぽんとかにはんとして知られています。

日本人はいろいろなものの美しさを愛します。一軒の家に子供からおじいさん、おばあさんまでが一緒に住んでいます。どこの家にも床の間があって、そこには何か美しいものを飾ってあります。また庭も美しくしてあり、誇りを持っています。

日本の子供たちは少なくとも9年間学校へ行きます。多くの道はせまくて歩道がないので、学校へ行くときは車や自転車に注意しながら行きます。子供たちは（背中に）かばんを背負って、その中に本を持って行きます。昼食は「おべんとうばこ」といわれる小さな箱に入れます。

子供たちは、かくれんぼや野球をして遊ぶのが好きです。野球は日本で広く親しまれている娯楽です。たこあげは家族みんなで楽しめます。たこあげの競争が計画されています。時には村中の人々がだれが一番大きなたこを作ってあげるかを見る競争をします。男の子にとって特別な日は、毎年行なわれる5月5日の「子供の日」です。この日には、こいのぼりを竹ざおにつけて立て、風になびかせます。

女の子の特別な日は、3月3日の「ひなまつり」の日です。

末日聖徒の子供たちの特別な日は、8歳になってバプテスマを受けることのできる日です。日本ではバプテスマフォントのある教会堂が少ないですが、たとえそれがなくてもお風呂で受けることができます。また時には、日本を囲んでいる海の冷たい水の中で受けることもできます。

絵：シェリー・トンプソン



小さな お友だちへ

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター長老



小さな子供たちは天のお父さまにとってとても大切です。子供たちがどこに住んでいても、どんなものを着ていても、また何を見ている、天のお父さまは子供たちをいつも愛し、やさしく見えています。天のお父さまは黒いちぢれ髪をしたフィジー(島)の子供たちやサモアやトンガ、タヒチなど南の海の暖かい土の上をはだして走っている、やさしくてとてもきれいに着飾った子供たちを愛しています。天のお父さまはかわいいイギリスの子供たちを愛しています。このお友だちは、学校に行くときでも家にいるときでも同じように、ショートパンツやネクタイ、スカート、セーターを着ています。天のお父さまは日本の子供たちを愛しています。日本の子供たちは洋服を着ていて、礼拝堂には靴をぬいで入ります。天のお父さまは南アメリカの日焼けした子供たちを愛しています。またとてもき

れいな色の首飾りをつけて、古い昔の儀式のときに踊るレーマン人の子供たちも愛しています。天のお父さまは世界中の子供たちを愛しています。

これから、みなさんがこれらの子供たちにとても似ているところを教えてあげましょう。トンガの月よう日の夜です。ある家族が家の中やファレで「家庭の夕べ」の準備をしています。そこでは、世界中の家族と同じテキストを使っています。みなさんのお父さんやお母さんと同じように、トンガの子供たちのお父さんやお母さんは、子供たちが何が良いことか悪いことかを知り、それを毎日の生活にどのように取り入れていくかをわかるように助けたいと望んでいます。

子供たちはゲームをしたり、歌を歌ったり、特別なごちそうをいただきます。子供たちはみな、「家庭の夕べ」のごちそうを食べるときが好きです。



寝る時間になると、どここの国でもやさしいお父さんやお母さんは子供たちと一緒にひざまずいてお祈りします。アルプスの高い所にあるふわふわした羽ぶとんのそばでも、まずしい小屋の床にしいた小さなふとんのそばでも、どこでお祈りしてもよいのです。天のお父さまは子供たちのお祈りをすべて聞き、わかってくださいます。

教会の子供たちはプライマリーや日よう学校に出席することができます。教会では世界中の子供たちが同じ歌を歌い、同じべんきょうをしています。日本の子供たちがうつくしい日本のことばで、「わたしは神の子」や「おそれずきたれせいと」を歌うのを聞くのはとても楽しいことです。

子供たちのための教会の集会で子供たちが初めて話をするときや、そのほかの方法で出席するとき、世界中

どこでも同じように興奮したり、どきどきしたりするようすが見られます。プログラムが終わると子供たちはみな、満足した気持と喜びを味わいます。そして、お父さんやお母さんは子供たちをだいて、(子供たちが)よくやったことをほめます。

教会の子供たちは8才になるとバプテスマを受けます。きれいな新しい建物の中にある美しいタイル張りのバプテスマフォントか、冷たい湖や川、池でバプテスマを受けます。バプテスマは神さまの聖なる神権によってとり行なわれます。そしていつも全身を水に沈めます。

世界中の子供たちは、什分の一を納めるときに受ける祝福を知っています。監督は子供たちを愛しています。そして、什分の一が子供たちにもたらす喜びと、子供たちが喜んで什分の一を納めることを知っているので、監督は子供たちの心のこもった什分の一のお金を感謝して受けとります。

監督は、プライマリーや日よう学校で子供たちを助けられるように、りっぱな先生をいつも用意しています。

先生は、子供たちを愛しています。これらのかわいい子供たちはどこであっててもみな、熱心で信仰があり忠実で親切な末日聖徒の子供たちであることを私は知っています。イエスさまは言っています。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」と。



まっくらな おへや

ウィルマ・バテラー 作
フィリス・ラッチ 絵

まいばん7時ごろになると、スチュアートは、だれにもみつからないように、小さなあなにかくれたいと、おもいます。どうしてかという、まいばん7時になると、スチュアートのおかあさんが「ねなさい！」というからです。

スチュアートはおやすみの時間が大きらいでした。きしゃごっこやつみ木をやめるのがいやなのではありません。パジャマにきがえて、歯をみがいて、おとうさんにおやすみのあいさつをして、おかあさんにおやすみなさいというのが、いやなのでもありません。

スチュアートは、まっくらやみがこわいので、おやすみの時間がきらいでした。くらやみの中にあるへやの中のものもこわかったのです。でも、スチュアートは、おとうさんやおかあさんにだまっていました。おとうさんとおかあさんが電気をけし、ドアをしめて、下にいってしまっても、へやの中のものなくなるのではなくスチュアートのまわりにぜんぶちゃんとありました。

スチュアートは目をとじました。でもだめ、おへやのものはまだおんなじにあることを、ちゃんとしています。スチュアートは目をあけて、みまわしました。

おへやの中のは、かいぶつ、大きなりゅう、こわいトラ、そしてムガゴンのようです。

スチュアートがせかい中でいちばんこわいのは、ムガゴンです。なぜなら

スチュアートがじぶんでかんがえたかいじゅうだからです。ムガゴンには3つの目があって、あたまにつのがあり足にはクモのように毛がはえています。ムガゴンはせかい一おそろいのです。

スチュアートは、なかなかねむれませんでした。まわりのまっくらなかいぶつたちをにらんで、それよりそばにこないで、とおもいました。

やがてスチュアートはねむってしまいました。そしてあさになると、かいぶつも、りゅうも、こわいトラも、3つ目で足に毛のはえたムガゴンもいなくなっていました。

ある日、ボブおじさんがスチュアートのところへあそびにきました。

ボブおじさんはすてきな人です。いつもポケットに、スチュアートにあげるプレゼントがはいっているのです。あめだったり、本だったり、ゲームだったり、おもちゃだったり。でもこのときは、ちがうものでした。なにか、ながくてまるくてかたいものでした。

スチュアートは、包装紙をやりました。

スチュアートはさげびました。「あ、かい中電灯だ」「ありがとう、おじさん」

スチュアートは、かい中電灯でうちじゅうをてらしてみました。絵やランプや花やいす、かべの花もようも。

かい中電灯のプレゼントは、いままでボブおじさんのくれたうちで、いちばんすてきなプレゼントでした。スチ

ュアートはかい中電灯がとてもきにいったので、ねるときもベッドのところへもっていきました。おかあさんがあかりをけして、ドアをしめて、下へいってしまってから、スチュアートはかい中電灯をつけて、くらやみのなかのものをてらしてみました。そしたら、とってもゆうきができました。

どうでしょう。

スチュアートは、へやのなかになにがあるか、はっきりみることができたのです。

けれどそこにあったのは、かいぶつでも、りゅうでも、こわいトラでもありませんでした。

ムガゴンでもありませんでした。

そこには、いつもいっしょにあそんでいるくまさんがいました。ピエロのおにぎょうや、青い毛のウサギさんや、ねじをまくとハッピーバースデーのうたをうたうちゃいろのワンくんがいました。

みんな、スチュアートのともだちでした。

スチュアートは、こわがったじぶんがおかしかったことでしょう。かい中電灯をけして、まっくらやみのへやの中のをみても、スチュアートは、もうちっとも、こわくありませんでした。

スチュアートは、まくらをして、まっくらやみにニコニコして、おともだちたちにいいました。「おやすみなさい。」スチュアートは、すぐにすやすやとねむりはじめました。

次郎の願い

バーナダイン・ビーティー

絵： テッド・ナガタ

丘の上の新しい近代的なホテルへ向かう車が、おじいさんの小さな旅館の前を砂ぼこりをまき上げながら通りすぎるのを見るたびに、次郎の心は重くなるのであった。見上げると、おじいさんとおばあさんがかたわらに立っていた。

「止まらんのか。」おじいさんは寂しそうにつぶやいた。「こんなちっぽけな旅館はもう時代遅れなんじゃろう。」

「そんなことはないよ、おじいちゃん。」次郎は言った。「東京のプロ野球のチームが泊まってるからなんだ。みんな選手を見たいから集まってるんだよ。」

「心配するのはよしでしょう、おじいちゃん。夏になったら、またいつものお客さんが来てくれますよ。そしたら何とかやってけますよ。」おばあさんは静かな口調で言った。

しかし次郎の目には、おじいさんの心配そうな表情がありありと見えた。お客さんに来てもらいたいのは今なのだ、夏じゃない。番頭さんや板前さんに給料を払うにもお金がないのだ。しかし次郎には1つの確信があった。「どんな人でも、1度うちに泊まったらきっとまた来てくれる。だって丘の上のホテルは、うちのように、おいしいすき焼きやてんぷらを食べさせて



くれないよ。／＼」次郎は目を輝かせて言った。

「おりがとう、次郎。」おばあさんはうれしそうに言った。「さ、遊んどいで。みんな練習場に見に行ってるんじゃないのかい。ほらあの東京の連中がやってる、何て言ったけ、ほら、ボールを棒で打って走るやつ……。」

「おばあちゃん、野球のこと？」次郎はおかしさをこらえながら言った。「そのうちわかるよ。ぼくは日本一のピッチャーになるんだ。その時はおじいちゃんといっしょに見に来てね。ぼく、たくさんお金をもうけてくるよ。そしたらもう心配しなくていいからね。」

おばあさんはやさしくほほえみながら次郎に言った。「そしたらだれよりも次郎に応援してやりましょう。さ、遊んどいで。」

丘をかけ登りながら練習場へ向かう次郎の胸には、何かひっかかるものがあった。次郎は、おじいさんたちを何とか助けたかった。1人でもいいから、選手たちにうちで食べてもらったら、ほかの人たちもきっと来てくれる。しかし、いつも選手を取りまいてるファンの人たちを押しつけて選手と親しくするのは大変なことだった。

友だちの敏夫が練習場で待っていた。

「次郎、早く来いよ。」敏夫の黒い目が輝いていた。「ぼくら、バットボーイの仕事をたのまれたんだよ。」

次郎の心はおどり上がるようだった。親切な人たちばかりなので選手と話すのは簡単だった。しかし、次郎がていねいに頭を下げて、おじいさんの旅館のおいしい料理を食べに来てくれるように話しても、みんな笑って首を横にふるだけであった。

気落ちした次郎だったが、練習を見ていくうちに、しだいに心が燃えてくるのに気づいた。きつと金田さんのようなピッチャーになってみせる。

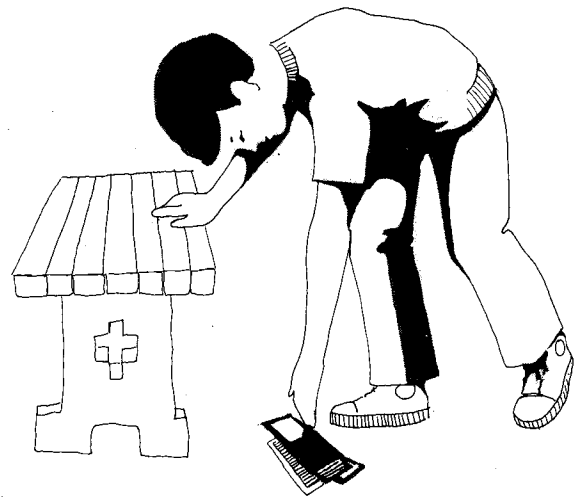
練習も終わりに近づいた時、ボールが次郎の頭の上

をこえて飛んで行った。急いで走って行ってボールをひろくと、次郎は、外野手の吉田選手へ力いっぱい、まっすぐに投げ返した。

「ナイスボール。／＼ 君は選手になれるよ。」「ありがとう。」次郎はうれしそうににっこり笑いながら言った。「ぼく、ピッチャーになりたいんです。」「そいつはいい。」吉田選手も笑いながら答えた。「すまないが上着を取ってきてくれないかな。向こうの更衣室においてあるんだ。」

次郎はうなずいて、練習場を急いでかけて行った。更衣室に入り、上着を取って出て行こうとした次郎は、床の上に落ちている皮のさいふに目が止まった。中を見て次郎は目をまるくした。お金がぎっしりつまっている。——今まで見たこともないようなたくさんのお金が——それは、番頭さんや板前さんの給料を何か月分か払ってもまだ余るようなお金だった。

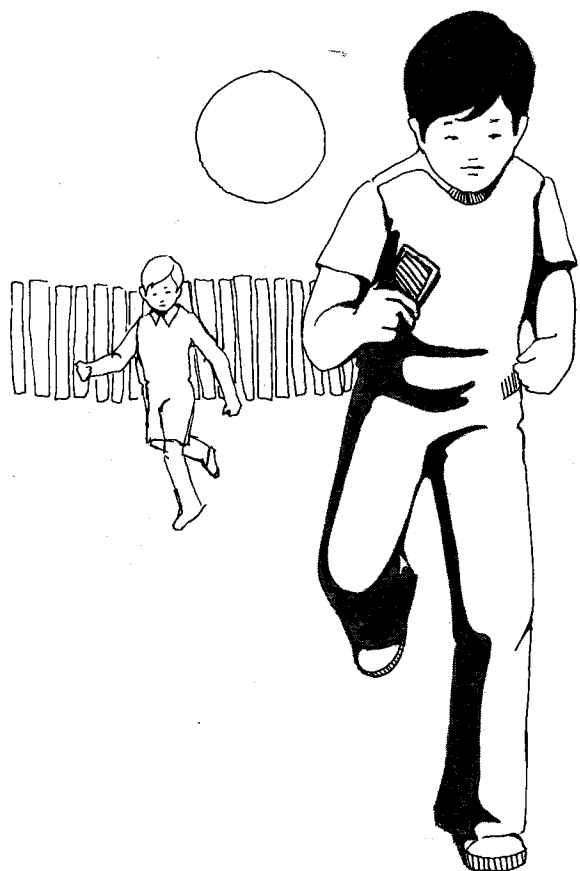
次郎は手をふるわせながら、さいふをすばやくポケ



ットにねじこんだ。「毎日少しずつおじいちゃんにあげよう。いろんな用をたしてあげたお礼に選手からもらったって言えば、だれも疑う人はいない。選手がお金をたくさん持ってることはみんな知ってるんだ。」次

郎はそう考えた。

更衣室を出ようとした次郎は、突然むなしい気持ちにおそわれるのを感じた。それは、自分が当然もらえるお金を受け取ったような気持ではなく、必要としている人からお金をぬすんでいるような気持だった。



ぬすむ！その言葉は次郎の胸につきささった。次郎は首を横にふった。「何ではずかしいことだ。こんなことをしたら、おじいちゃんやおばあちゃんだってはずかしい思いをすることになる。」さいふをポケットから取り出すと、次郎は急いで吉田選手のところに走って行った。

「はい、上着です。」次郎は言った。「それから、

これを見つけました。」そう言ってさいふをさし出した。

吉田選手は笑って、「金田のだよ。あいつはそっかしいやつだから。彼にわたしてくれるかい。でも早く行かないと帰ってしまうかもしれない。」

次郎は大急ぎで通りへ出ると、車に乗りこもうとしている選手たちにむかってよびかけた。

「金田さーん。」

金田投手は、次郎の声を聞いて車からおりた。「ああ、おじいさんが日本一の旅館をやっているっていうところの子だな。」

次郎は金田投手にさいふをわたした。「これ、更衣室で見つけました。」

「ありがとう、坊や。」金田投手は、さいふの中から数枚のお札を出して言った。「これは、とどけてくれたお礼だよ。」

次郎はちょっとためらった。うしろから走って来た敏夫が耳もとでささやいた。「もらっとけよ。」

次郎は首を横にふった。「ぼくお金はほしくありません。でも、もしよかったらうちの旅館に来てください。それだけでいいです。」

金田投手はにっこり笑いながら言った。「ああ、いいとも。」次郎は喜びのあまり飛び上がった。

ぶらぶら歩きながらやって来た吉田選手が話を聞きつけて笑いながら言った。「金田、次郎君はいつか君のライバルになるよ。君には言わなかったかい。ピッチャーになりたいそうだ。」

金田投手もほほえみながら言った。「なるほど。ピッチャー向きのからだをしてる。あした、学校が終わったら来ないかい。練習のあとでみんなにいろいろ教えてあげよう。」

次郎はうれしさのあまり、空に向かって大きな声でさげびたい気持だった。「きっと行きます、きっと行きます、金田さん。」



「あなたが改宗した時」

七十人最高評議員会会員
S・デルワース・ヤング

「……それで、あなたが改宗した時には、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(欽定訳) 主は御自身の偉大なる犠牲のために、自らと使徒たちを備えるに当って、ペテロにこう言われた。この言葉はペテロを驚かせたに違いない。事実ペテロはこの言葉に心を痛め

て次のように言っている。「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでもあなたと御一緒に行く覚悟です。」そこで主はペテロに言われた。「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう。」(ルカ22:32-34)

マルコの記録では、ペテロが熱心に献身を申し出ると、残りの使徒たちも次のように後に続いたとなっている。「みんなの者もまた、同じようなことを言った。」(マルコ14:31) しかしその時がやって来て、ひとりの女中から使徒であると言われると、ペテロは

知らないで打ち消した。そして残りの10人も同じように、今まで言っていたことをひるがえして、誓った通りのことをしなかった。

ペテロは3年の間、常に主と共にあって働いた。しかし主から「あなたが改宗した時」と言われた言葉を耳にしながら、その意味を理解していなかったようである。

ここで話は変わって、十字架の上のはりつけとなる。これは人が考え出した死刑執行方法の中で最も苦痛を伴うものであり、この死を目にした人はだれしもひどく心をかきむしられずにはいられない。それから復活が起こる。地上で初めて起こったこの復活は、喜びと希望に満ちたよみがえりとなる。主はこの世を去られた。そしてそのみ業を、常に御自身と共にあった11人の手に委ねられた。しかし彼らは、3年もの間主のみ言葉に耳を傾けていながら、主の意図するところを完全に理解することができず、主の死刑執行を迎えた。復活された主の体に触れても、聖霊が下って燃える火で魂を揺すぶられるまで改宗という意味を理解できなかったのである。

主が捕われの身となった夜にためらいながら弟子であることを否定したペテロと、ペンテコステの日の靈感され

たペテロの行動とを比べてみると、私たちには改宗とは何かがわかる。ペンテコステで前へ進み出た人は、おそろおそろ「その人のことは何も知らない」(マルコ14:71)と言い張った時とは人が変わったようになっていた。またバプテスマを終えて聖霊を受け、勇敢にもアグリッパ王の前で真理を告げたパウロは、キリスト教徒を探し出して滅ぼそうとダマスコに出かけていた時とは、すっかり変わっていたのだった。

ペテロは信じ、そして否定した。それからペテロは改宗し、サタンの力も及ばない岩となった。(マタイ 16:18 参照) 真実の力強い内なる力に動かされた彼は、何ものをも恐れぬ毅然とした人となったのである。一方パウロは信じていなかったために、自分は神に仕えているのだと考えて迫害をしていた。そのパウロも改宗してペテロのようになった。

改宗は、地上における主のみ業を守り、広めるための決意と力をもたらす。この改宗は人が火のバプテスマを受ける時、すなわち聖霊の証し人となる時に起こる。

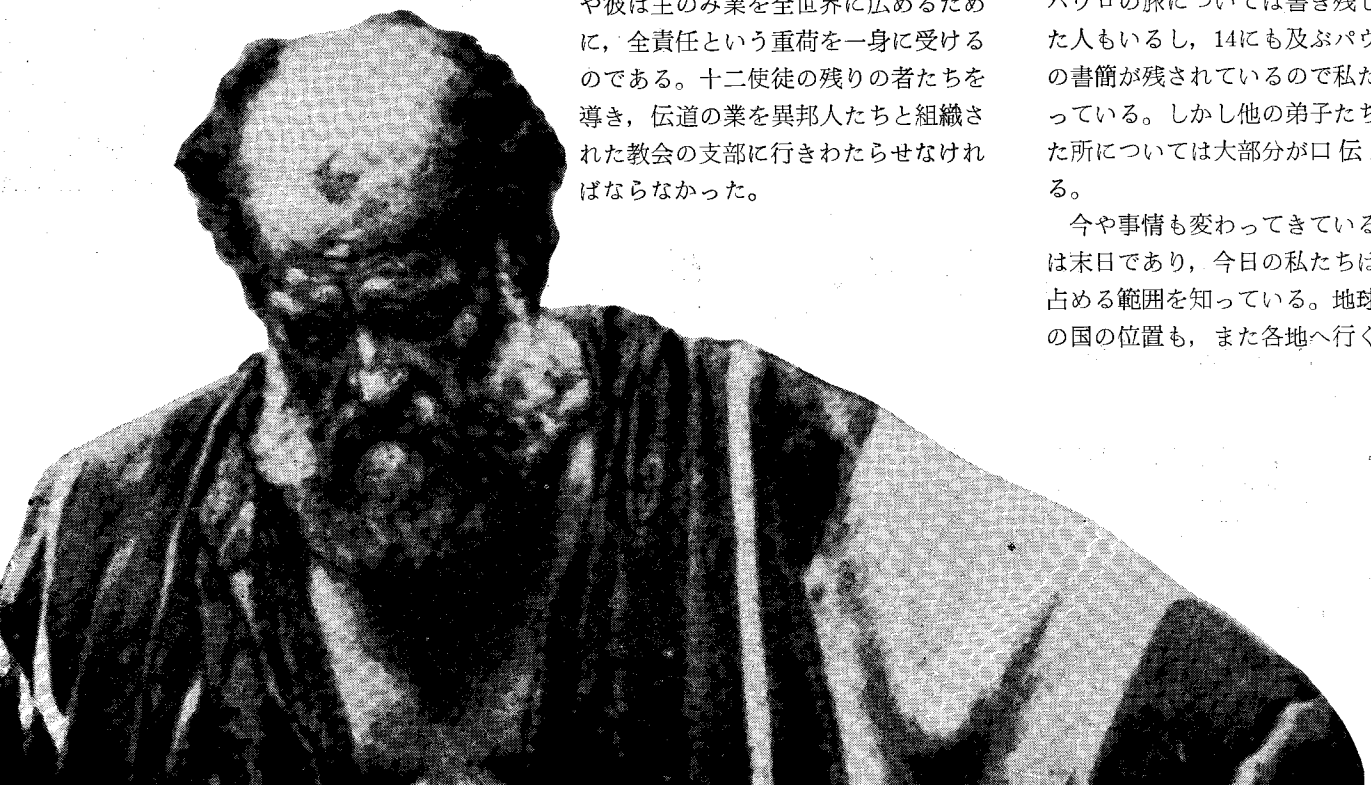
そしてすでにペテロに与えられていた鍵はすべて、改宗を境にして彼にとって真に意味のあるものとなった。今や彼は主のみ業を全世界に広めるために、全責任という重荷を一身に受けるのである。十二使徒の残りの者たちを導き、伝道の業を異邦人たちと組織された教会の支部に行きわたらせなければならなかった。

11人の者たちはみな慰め主を受けていたが、まだ実際に、経験したことのある者はいなかった。この慰め主により、彼らはすべてのことを教えることができ、すべてのことが明らかにされた。さらに慰め主によらないでは教えるべきではなかった。(教義と聖約42:14参照)

世の人々に教えるという重い責任が彼らのものとなった。一体彼らは世界について何を知っていたというのだろうか。その広さと大きさを。彼らはローマについて知っていたが、それは名前だけのことであった。アテネやアレクサンドリアのことも聞いていた。ダマスコやツロ、エベソ、シドンについてはかなり知っていた。また言い伝えによってエチオピアのことを知っていた。しかし、彼らにとって「世界」は漠然とした状態でしか写らなかったのである。

それでも彼らは勇敢に業を始めた。みたまのささやきがあり、新たにみたまにふれた1人1人は自分の行くべき地を、アテネ、エベソ、あるいはローマであると知った。そこに着くとみたまがさらに別の地をささやいた。そしてまた別の地へと出かけて行ったが、やがて彼らは当時知られていた世界のほとんどを巡り歩いたに違いない。パウロの旅については書き残してくれた人もいるし、14にも及ぶパウロ自身の書簡が残されているので私たちも知っている。しかし他の弟子たちが行った所については大部分が口伝えである。

今や事情も変わってきている。現代は末日であり、今日の私たちは教会の占める範囲を知っている。地球上のどの国の位置も、また各地へ行く手段を





も知っている。そして私たちは気候や他の自然現象から起こるべきことを予測できるし、どこへでも行ける方法がある。

11人の使徒たちは主の昇天を見たと言証し、ジョセフ・スミスは主が天から下りたもうのを見たと言証した。さらに天父が昇栄された愛する御子と共に立たれたのを見たと言っているのである。

過去において私たちはパトモス島でヨハネが天使の訪れを受けたことを知った。そして今日、私たちは多くの天使たちすなわちモロナイ、パプテマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、モーセ、エライヤス、エライジャが訪れて、それぞれの鍵を明らかにし、ジョセフ・スミスに渡したことを知っている。

私たちは自分の目で、古代の予言が数多く成就されようとしているのを、あるいはすでに成就されたのを見ている。

私たちは出て行ってどのように教えるべきかを知っている。いかに人々を探し出し、興味を持たせるかも知っている。そして正しい教え方を取り入れる方法も知っている。私たちに今必要なことは、1人1人が改宗をし、立ち上がって知識の力とみたまによって出て行くことである。主がペテロに言われた「あなたが改宗した時には、兄弟たちを力づけてやりなさい」という勸

告は真に今や実現する時である。ペンテコステの日に聖霊がペテロに下って共にあったように、この聖なる賜は私たちにも惜しげなく与えられるのである。1830年以来、私たちには指導者と忠実な会員を導き強める聖霊の力が与えられている。今や福音は宣教師や会員たちの熱心でたゆまぬ証により広められ、全世界の3分の2に及ぶ地域で教会が組織されている。しかもなお無数の人々に伝えなければならないのである。

1830年から1846年にかけて、全家族がみ業に携わったことがあった。彼らは隣人たちに声をかけた。すべての人が参加したのである。父親は少しでもひまを見つけると出かけて行って教えを宣べ伝えた。家にいる子供たちも手伝った。父親が留守にしている間を補うために一生懸命働かなければならなかったからである。

1846年以後、聖徒たちがユタの山あいの盆地に移動してからは、家族はそれほど参加しなくなった。父親は時々しか出かけなくなり、息子たちの方が出かけて行くことが多くなった。20世紀を迎えると、息子たちは実際に旅に出て、伝道する責任を持つようになっていった。その頃、家族たちは自分たちのなすべきことが出かけて行って教えたり、あるいは伝道したり友だちを作るのではなく、宣教師を助けることだと考え始めた。

今や相互関係が確立されているのであるから、私たちは当初の状態に立返り、家族が参加する時である。父や母、そして子供たちは耳を傾けそうな人を探し出すために共に大きな努力をするであろう。この努力があってこそペテロがせよと命じられた兄弟たちの力づけができると言える。宣べ伝えるべき相手を探す時に彼ら自身が強められ、改宗するであろう。それによって他の兄弟たちが強められ、やがてすべての人が神の御子の栄光を目にし、福音が転がり出でてついに全地に充ち満つるというみことばが成就されるのを証するのである。(教義と聖約65:2 参照)

教会の七十人は啓示によりこの業に召されている。そしてこの業が秩序正しく行なわれるよう、仕事に関しては詳細にわたってははっきりと決められている。すべてのワード部では、七十人の伝道主任が監督の指示のもとに伝道計画を立て、伝道を管理している。またホーム・ティーチャーも重大な責任を抱えており、すべての末日聖徒の家庭が非教会員の隣人たちと友だちになって宣教師を紹介するよう勤めるのである。以上方法は数多くあるが、忘れてならないことは福音は人の霊を救うということである。兄弟たちよ、改宗しようではないか。そしてみ業を広めよう。あなたがたにはスピリットが宿っているのだ。さあやってみよう。

私たちを導く大管長会や十二使徒を見てみよう。彼らの行ないには改宗の結果が見られるであろうし、ペテロのように聖霊に満たされてその任にあることをあなたたちに証しているのだ。彼らは現代において主から召された指導者である。彼らの指示に従い、私たち自身が改宗して兄弟たちを力づけようではないか。

私は主イエス・キリストがこの末日のみ業を導きたもうていること、そして生きたもうていることを知っている。この福音は主が回復したもうたものである。これらのことをイエス・キリストのみ名により証する。

アーメン。

次にあげる文章は、英国のマンチェスターで開かれた教会地域総大会での説教を抜粋したものである。

愚かな青年男女が口にする言葉を聞いたことがある。「他人を傷つけない限り、自分たちの欲望を満たそうとしてどこが悪いというのか。」また芸術とワイセツの判断がつかねて、好色な文学や絵画、写真などについて尋ねる人もいる。ところで、主は私たちに善と悪を判断する手段として真理を与えられておられる。偉大なる予言者モロナイは言っている。「あなたたちは善悪を判断する自由と権利を与えられているばかりでなく、その判断の方法は真昼と暗夜とを区別するように、誤りなく完全に知れるほど明らかである。すべての人々はみな、善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる。さて今私は判断の方法をあなたたちに教えよう。善を行えとすすめ、またキリストを信ぜよとすすめるものはみなキリストの権能によってその賜として来るのであるから、それが神から出たことは何の疑いもなく充分確に知ることができる。」(モロナイ7:15-16)

さてこのことは宗教的な事柄のみならず、普通の生活についても真理である。もし神と御子イエス・キリストを知ることから遠く離れるような教えがあるとすれば、それが悪魔から出ていることがわかるのである。その反対に真理であればあなたは救い主を受け入れる気持へと導かれるであろう。至極簡単なことである。

第一副管長

ハロルド・B・リー

什分の一と断食献金は、神の王国の財政に関する律法において本質を成すものである。ジョセフ・F・スミス大管長は言われた。「この原則により、この教会の人々の忠実な心は試しを受けることとなる。この原則により、神の王国に従う者と逆らう者とがわかるであろう。またこの原則により、いずれの人の心が神のみこころを行なうものであるかがわかるであろう。」

管理監督会副監督

ビクター・L・ブラウン

愛する友よ、私たちが悪魔と仲良くすることのないように望みたい。私は「大人の楽しみ」という言葉が嫌いである。大人に向いていて子供には向いていないなどというものは、どこか卑しく、不道德で露骨なもの、邪悪なものではないだろうか。私たちが買っている書物、読んでいる雑誌、行っている娯楽の場、あるいはその他のことで悪魔に有利な条件を与えてはならない。

十二使徒評議員会会員

リチャード・L・エバンス

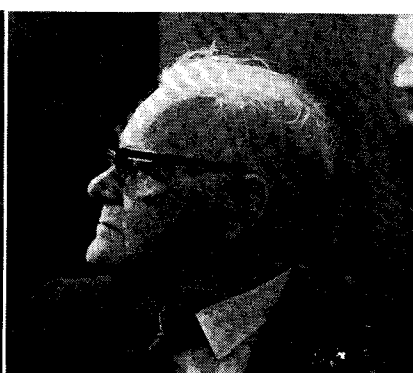
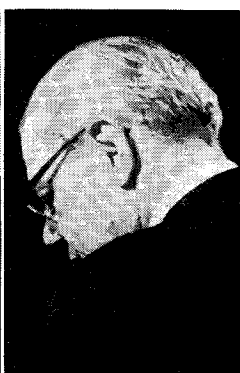
モルモン経の中に、非常に簡潔な文章で述べられた注目すべき2つの短い教えがある。1つは「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」であり、今1つは「罪惡は決して幸福を生じたことはない」である。私はこれ以上簡潔にこの教えを述べ伝えることはできない。

十二使徒評議員会会員

リチャード・L・エバンス

あなたがたは人の価値をどの程度に見ているだろうか。私はボストンでの出来事について話そうと思う。昨年冬はかなりの寒さだった。2月も終りに近づいた頃で、川や湖も氷のとけ始めているところがあった。だれも知らないことだし、もちろん人に知らせるほどのことでもないが、一匹の小さな雑種犬がボストン港の中を歩いていた。恐らくどの犬もやるように何かをかきまわっていたのだと思う。岸から400メートルぐらい離れたところにさしかかった時、その小さな犬をのせたまま氷が割れてしまった。犬が気がついた時には、困ったことに割れた氷は動き出していた。ちょうどオールド・ミスティック橋を通りがかった人がこの有様を見て、消防署に連絡をした。それから鎖のはしごとその他の装備を携えた消防署の車がとんで来た。話が広まって、さらに警察や市、数人の都市行政委員たちまでが集まり、ボストン全市をあげてこの小さな犬を救おうとした。気のきいた新聞記者がその

マンチェスターコンファレンス



日計算したところによると、この小さな犬を救うためにポストン市は1万8千ドルを費したそうである。

私はこのことを人間にあてはめて考えてみた。神の霊の子に代わる代価があるだろうか。もちろんない筈である。

七十人最高評議員会会員

ポール・H・ダン

私たちはみな、家族を捜し出して宣教師たちに紹介することが大切である。これこそ指導者たちが繰り返し強調している「すべての会員は宣教師である」という言葉の神髄である。

七十人最高評議員会会員

ローレン・C・ダン

我が国、そして私の知る他の諸国においても、あなた方のような考えは悲しいかな劣勢を被っている。しかし神のみ業はつねに人々の横柄な目や驚いたような眉、軽蔑した唇、抜け目ない意見などをずっとその身に受けてきた人、確かにそのような人によってなされてきたことを知らなければ、マンチエスター、ロンドン、ニューヨーク、ブエノス・アイレスなどの街角を歩いても大きな失望を受けることは間違いない。

十二使徒評議員会補助

マリオン・D・ハンクス

つねに信じてきたことではあるが、私たちが受けるにふさわしければ、自分にとって本当に必要な導きを与えてくれるみたまの力を、私は前にも増して信じている。

十二使徒評議員会補助

マリオン・D・ハンクス

参照として教義と聖約から次の1節を選んでみた。

「わが律法を受けてこれを行なう者はすなわちわが弟子にして、わが律法を受けたりと言いてこれを行わざる者はわが弟子にあらず。これらの者は、汝らの中より追い出さるべし。」（教義と聖約41：5）

キリストがわが弟子になるようにと言った勧めは全人類へ

のものである。すべての人々に向けて言っているのである。そしてキリストの召しと約束は次のように述べられている。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」（マタイ11：28）

イエスは御自身の招きに対して値段をつけたりはなさらなかった。もちろんこれは、代価がいらないということではない。代価、それも実に真の代価、すなわち行ないという代価がいるのである。

十二使徒評議員会会員

マリオン・G・ロムニー

すべての会員は指導者としての力を秘めている。今日は従う者であっても、明日は指導者であるかもしれないのだ。この教会は実に多くの機会を有している。そしてすべての召しを通して奉仕の機会が与えられている。私たちは召しが与えられるとよく次のように自問してみる。「なぜ私にこの召しが与えられたのだろうか。私よりもふさわしい人がワード部あるいは支部の中にいるではないか。」しかしながら、主は私たちの能力や可能性について私たち以上に知ったもうことを忘れてはならない。私たちが召されるのは、現在の私たちではなく将来の私たちのためであることが非常に多いのである。

十二使徒評議員会補助

ヘンリー・D・テイラー

私たちに恵まれている特別な賜物、すなわち知性や肉体的な能力、時間、金銭、そして多くの機会とは主から来ているものである。これらは私たちが使うために与えられた。決してしまっておいたり隠しておいたりするためではなく、使うためのものである。

十二使徒評議員会会員

ハワード・W・ハンター



ここに載せるのは、教会の教義を教えるためでなく、読者に参考となり何らかの助けとなるためである。

質 疑 応 答

物事について私が両親と違う考えを持っていることを、どうしたら両親にわかってもらえるでしょうか

一般的に言って、両親と子供は違った見方をするものです。でも、あなたのご両親はそのことを知っているということを、胸にとどめておいて下さい。そのことをご両親に注意する必要はないのです。重大な相違が出た時に私たちが考えなければならないのは、関係する人みんなにとって最も良いように解決するにはどうしたらよいかということです。

ご両親が、あなたが見ることのできないでいる危険な場所や石やわなを知っているというために生じてくる相違もあることでしょう。それぞれの世代に育った人が、何年か前には束縛のように思えた教えが、自分が成長してみると賢明な助言に思えると、両親に感謝しているのを見ると、私は感慨を覚えるのです。

もし、重大な意見の相違が起きた時には、両親も若者も「主の目から見れば何が正しいのだろうか」と自分で考えてみるとよいと思います。教義と聖約68:28に出ている、主が両親に与えられた助言を読んでみるとよいでしょう。「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えるべからず」これは両親に対する戒めですが、「理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし」と言われています。もし両親との相違が、福音の教えからあなたが離れたためのものであるなら、誠実な両親はそのことをあなたに教えてあげたいと切に願うに違いありません。その時の問題は両親との不一致ではなく、天父やイエス・キリストとの不一致となります。

家族内の意見の相違をうまく解決するための方法をいくつかあげましょう。

- 1、主のみことを知りたいという望みを持って聖霊の助けにより良い解決が得られるよう、真心から祈りなさい。
- 2、建設的な考えを発表する機会が全員に与えられる家庭の夕べに、まじめに参加しなさい。
- 3、他の時に話し合った方がよい場合には、家族がおだやかでなごやかな気持のよい時を選びなさい。
- 4、あなた方の相違が、モグラ塚のようなこの世だけに大切な事柄でないかどうか確かめて下さい。これから10年たったときに大切だと考えられないような事柄のために、お互いの愛の気持

をこわしてはなりません。

- 5, 話し合いは早いうちにしなさい。堪忍袋の緒が切れるまで延ばしてはいけません。
- 6, 両親の言葉に耳を傾けなさい。話を聞き終わってから、自分の話を聞いてもらいなさい。でも両親も若者も自分の問題についてしゃべりすぎることがおもうにしています。正しく用いられる沈黙は黄金です。
- 7, 両親にあなたの見方について考えさせてもらいなさい。急がせて、良くない決定をしてしまわないように、上手に頼まなくてはなりません。
- 8, 他の何がだめでも、忍耐だけは失わないで下さい。「それもまたよい」という大事な言葉を覚えていて下さい。両親の助言に従いたくないと本当に思った時には、あなた自身の結論をよく考え、検討してみてください。私は自分の側から見て良いと思われる理由を1つずつ取りあげ、それが本当に良いものかどうかを考えてみることにしていますが、とてもよい方法だと思っています。そのようにしてみると、やっぱり良くないと思う事柄が時々あります。あなたが自分の理由について検討する時にも、きっと私と同



解答

エバハード兄弟

じだと思っています。

最後にもうひとつ、これまでの私の答えは相違点についての質問に対するものでした。相違を見たり感じたりすることは容易ですが、両親と一致することを忘れてはいけません。福音や、お互いに対する愛、数々の良い経験、いっしょに過ごす楽しい時間、いろいろな思い出、多くの犠牲、共通の信条、さまざまな事に関する理想など。自分で数えあげれば、両親と自分の間にいかに多くの一致点があるかにきっと驚くことでしょう。99パーセントが一致できるにもかかわらず、両親との触れあいの中のたった1パーセントでしかない相違をとりあげて、わざわざ

それを大きくしてしまうことは、ばからしいではありませんか。若者がそのようにしたあげく、誠実で永遠にあなたのことを心にかけてくれる友だちがなかなか得られない時にも、最良の友でいてくれる両親との大切な関係をこわしてしまうのは、なんと悲しいことでしょうか。

アーネスト・L・エバハード・ジュニア

管理監督会事務局

アロン神権部マネージャー

末日聖徒の男性が少ししかない小さな支部やワード部にいる姉妹が、教会員でない人とデートをするのはどうでしょうか

デートというのは、仲間に受け入れられるという意味を持ち、友人を得るだけでなく自信を得るのにも役立ちます。私の娘たちも末日聖徒の男性が少い所に育ちましたから、このような質問を持つ人の気持や理由がよくわかります。

でもこのことについては、その人その人の行動の標準や目標の方がまず重要だと思います。主の神殿で結婚することは末日聖徒の女性にとって一番の願いですので、デートの問題もあなたのその夢をどう



解答

ロムニー姉妹

したら実現できるかということになってきます。

どんな関係においても、私たちはギブアンドテークです。女性が守っている標準はデートの時にも尊重され、男性の考え方や行動に影響を及ぼすことでしょう。キリストに従う私たちは、世にありながら、世のものとなってはなりません。私たちのまわりの人々が私たちの行ないや原則を知ることが大切なのです。

男性の長髪はいけないのですか

精神面を抜きにして良い悪いが決められることはしばしばありますが、髪の長さや靴の型、背広のス

タイルなどは神の目からみて良いとか悪いとか言われるものではありません。しかし、それは着ている人の態度や気持を示すものと言えるでしょう。古い時代から、若者は、程度は違ってても大人とは違う自分たちのスタイルを生み出してきました。ある時はモグラ・ズボン、ブルドッグ刈り、男性のくさび飾り靴、女性のロングスカートでした。衣服も家も車もさまざまなものが常に変っていきます。現代は多くの若者が髪を長く厚くしたがる時代です。大人でさえも、厚くふさふさした髪の人があります。

しかし最近、急進的な人々やテレビや新聞でよく見られる麻薬使用者が好んで長髪にするようになってきました。その結果、そうではない若者もそれらの反抗者のシンボルをとりいれて、他の人々とは違う自分を主張します。そしてそのような若者に、急進的な人物というレッテルをはる大人が出てくるのです。またそのような髪をしているのを見て、あなたもいわゆる長髪の人々の仲間、彼らの主張に共感し、麻薬にふけったり、反抗者にならない保証はないと考えるかもしれません。

問題が起きるのは、服装などの外見で交際が決まるということです。それはだれでもわかることです。



両親は、あなたが違った世界の人たちと交際してはいないかと不安になってきます。そのため、あなたのことを心配します。

さて、あなたもあなたの両親も、末日聖徒として「よき聞こえあること、ほむべきこと」を代表しています。両親にとって、長髪は肯定的よりは否定的なものです。人間の行動のほとんどにおいて、過ぎるということは不安定なものです。もちろん、大人がそれも成長の一過程であり、自分にとって価値あるものを見出したための行動であると理解してくれるならばよいのですが。しかし、末日聖徒であるあなたはイエス・キリストの福音を持っており、そ

こにこそ、真に価値あるもの、あなたにこの世でものちの世でも幸福をもたらすものが存在するのです。私たちが、人々の中であって、「ききめをなくした塩」ではなく「山の上の光」となるためには、価値ある福音に近くあらねばなりません。

もし私たちが福音の役割や人々によって福音はどんな意味を持つのかということを考えるならば、髪型の型がどうかということは大人にも若者にもたいした問題ではなくなり、福音の中であって無理解の壁はくずれることでしょう。そしてあなたは、自分がなりたい人物を代表する型を選ぶことができるようになるに違いありません。

C・ラバー・ロックウッド
ユタ州社会奉仕部麻薬課長

系図はなぜ大切なのか

末日聖徒たちにとって、系図はもっとはるかに重要な事柄を成し遂げる道具であるからこそ大切なのです。私たちは、自分たちが文字通り天父の霊の子供であり、家族の関係は永遠であると信じています。また、家族はこの世だけではなく、永世に結ばれることができると信じています。



私たちは家族関係を明確にするため、できるだけさかのぼって記録を集めます。それが系図です。そして神殿に行き、神様から言われた救いのための神権の儀式をとり行ない、各個人を結び固めて永遠の家族とするのです。系図と神殿の仕事の目的といえば、永遠にわたって家族生活を継続させ、愛し敬いおそれている私たちの天父のみまえに、家族が栄えある復活体をもって集まることです。

神の生みたまいし独り子イエス・キリストにより永遠の父なる神の家族に加わる資格を得たいと願うすべての人を結び固めるという、非常に大切な目的を遂げるためのたった1つの手段であるがゆえに、

その仕事の道具として系図が大切なのです。

セオドア・M・バートン長老

十二使徒評議員会補助

私は宗教が自分の身についていると感じることができません。それで、成人映画や現代の道徳観の上に立った小説を読むのはどうでしょうか

私たちのうちの多くが、100パーセントの時間を宗教に打ち込むのはむずかしいと感じていることと思います。まことの宗教は私たちの内にある最良のものを要求しますが、全身全霊をもって努力することがいつも容易であるわけではありません。宗教生活の要求するところが自分の力を越えていると感じ始める時、心が重くなるのは人間としてまったくもったもなことです。ある人にとっては時間が問題となってくるでしょうし、またある人にとっては、教会で会うと気まずい人がいるとか、また禁じられていることに心を奪われる自分をなかなかおさえられないとかいうことが起きてくることでしょう。「どうも教会の中にすっきりとけこめない」と感じる時、もし助けてくれる人がなかったら、そのような誘惑に



解答

バセット兄弟

抵抗するのが困難になるかもしれません。しかし、私たちの問題をすべてご存知で、人生最良のものを得たいという私たちの望みをよく承知しておられる救い主が、援助の手をさし伸べていて下さいます。救い主は私たちを助ける資格を備えたただひとりのお方と言えるのではないのでしょうか。ここで、みなさんから出された問題について、イエスの教えの中からそれに関連した一番大切な教えをとりあげて考えてみましょう。思いが大切で力あるものだという教えについてみてみます。私たちの行動は思いによって決定されるため、イエスは繰り返し、心に平安を保ちたいならば良い思いと正しい動機が必要なこ

とを強調されました。良くない思いを生む行動は、私たちの幸福をやがてはこわしてしまうのです。

私たちが娯楽を選択する場合、それが心にどんな影響をもたらすかを考えて慎重に決めなくてはならないと言われていることは、おそらくそのためだろうと思います。完全な幸福を求めるならば、現代的な娯楽や芸術にどんな問題点があるかを公正に考えてみなくてはなりません。たとえば、流行している映画や小説の標準の多くは、福音の言うところと正反対であり、そのようなものに心が向いていることが宗教が身につかないでいる大きな理由ではないかということです。良い生活を望みながら、それに反するものをなかなか捨てきれないというジレンマの状態にある時、その人は昔のオーガスティン¹のようだと思います。彼は、「主よ、私に貞潔をお恵み下さい。しかし、今はまだ。それは、主がその願いを聞いて、消えるよりは満たしたいと願った好色の病をすぐになおして下さることを恐れたからです」(聖オーガスティン¹の告白・Ⅷ巻) 内なる平安はその人から離れ、それを取りもどすためには、2つのうちどちらか一方を選ばなければならないのです。

ではそのような時、どうしたらそんなにも楽しいものをやめる力を見出せるのでしょうか。その問題の1つの解決法は、イエスのもう1つの教えつまり悪い思いを良い思いによって追い出すという大切な真理の中にあると思われます。たとえば、現代の標準にある成人映画や小説を見ている人はもっとよい映画や小説も見るようにして、映画や小説を見た時には両方を見られるようにしておくのです。そうすれば、私たちは心の中の最良のものを選びとり、娯楽や教えにしてもより高いものを求めるのではないのでしょうか。そのようにして思いを高め、生活も高められて、レクリエーションの時間が文字通り再生の時となるのだと思います。

マルクス・アントニウス²は何世紀も以前に、「あなたの人生の幸福はあなたの思いの質により決まる」と言いました。救い主は近代にこう述べておられます。「絶えず徳を以て汝の想いを飾るべし」(教義と聖約121:45) 宗教を本当に自分のものにするための方法はただ1つ、これに尽きるのではないのでしょうか。

アーサー・R・バセット

ユタ大学インスティテュート教官

1. 聖オーガスティン (354~430) 司教、教会博士、神学者、哲学者、アルジェリア生れ。
2. マルクス・アントニウス (BC 143~87) ローマの政治家、雄弁家。

旧

約聖書に記された興味深い物語としてダニエルがネブカデネザルの夢を解き明かした話がある。王は夢の中で1つの大いなる像を見たが、その像は大きく、非常に光り輝いて恐ろしい外観をしていた。それから、山から落ちてきた1つの石がこの像を打ち砕いてこなごなにしてしまった。王はこのことが非常に気に入り、夢の解き明かしを知りたいと思った。

予言者ダニエルは、この夢の解き明かしで、後に神が1つの国を立てること、またこの国はいつまでも滅びることがなく、ついには他の諸々の国々を打ち破って滅ぼし、立って永遠に至ると語った(ダニエル2:31-44参照)。聖典には次のように彼の言葉が記されている。

「一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです」(ダニエル2:45)。

多くの宗教作家、そして確かにすべてのキリスト教作家は、この起こるべき国がイエス・キリストの王国であることを私たちに正しく教えている。しかし、この国がいつ立てられるのかという大切な問題が起こってくる。そして多くのキリスト教徒は、この夢がキリストの地上での使命と共に始まったキリスト教の国について述べているのだとしている。彼らは事実キリスト教が何世紀にもわたって国々を守り育ててきたのであって、国々にとって代わるものではなかったことを忘れてい

る。また、イエス・キリスト自ら背教が起こると語られたことを忘れているのである。イエスは末日について次のように警告しておられる。

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ24:24)

イエスは使徒たちの死を予言されており、現在の私たちはこのことが実際に起こったことを知っている。使徒たちが死ぬ前に、パウロは当時の聖徒たちに警告の言葉を与えている。

「霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけ

ない。だれがどんな事をして、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り……」(Ⅱテサロニケ2:2-3)

キリスト教会の歴史を正しく学べば全世界に背教が起こるという聖書の予言が文字通り成就していることが容易にわかる。しかも、なお、ダニエルがネブカデネザルの夢を解き明かした時に語った予言がやがて成就される必要があるのである。そして「いつ」という質問が残される。

これに関して予言者イザヤの言葉をここに引用したい。

「終りの日に次のことが起る。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべて国はこれに流れきて、

神の王国

十二使徒評議員会補助
セオドア・M・バートン



多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。』（イザヤ2：2—3）

この末日において、イエス・キリストの王国はすでに再び人の前に回復されたという啓示が与えられている。

「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され、福音はここより転じ行きて世の果にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し。」（教義と聖約65：2）

この教会の初期において宣教師たちはカナダへ出かけ、回復されたイエス・キリストの福音を宣べ伝えた。そこで彼らは栄光に満ちた大いなる喜びのおとずれを知らせ、神がいかにして再

び語りたもうたかを説明した。その福音の石は人手によって山から切り出されたものではなく、御子を指して「これはわが愛する子なり、彼に聞け」（ジョセフ・スミス2：17）とジョセフ・スミスに示されたその時に、神御自身によって転がされたものである。

回復された真理と希望の聖なるみ言葉を、ジョセフ・スミスという人間を通して人々の前に回復されたのが御子イエス・キリストであった。イエス・キリストの福音は「山」から出ている。この「山」はイエス・キリストの王国を表わすもう1つの言い方である。そしてこの回復されたイエス・キリストの王国は、地上の他の王国が急速に取り除かれつつあったある日明らかにされた。いくつかの王国が残ってはいるが、それらは主として立憲君主国である。唯一つ生き残る王国がイエス・キリストの王国となり、地上のすべての王国に取って代わる日がやがて来るであろう。

宣教師たちが東部カナダの地で真理と希望のみことばを伝えた時、私の曾祖父サムエル・バートン・ジュニアはそれを聞いたのである。みことばに親しみを覚えた彼は、家族と共に福音が真実であることを受け入れた。教会の会員となってから、彼らはノーヴーにいた教会の残りの人たちに加わるべくカナダを立った。しかしノーヴーに着く前にジョセフとハイラムが殉教したため、家族はウインター・クォータースの草原にいる教会員たちと合流するために進路を西へ取った。愛する妻のハンナ・シブレイ・バートンは旅の疲れから病気になり、ミズーリ川の岸辺の草原で死んだ。悲しみに打ちのめさ

れた曾祖父は、多くの人々が主から試されて苦難と試練を受けた時にするように、きっと不平の言葉をもらしたであろう。もし神の意図を完全に理解したとすれば、私たちは苦しみにもっと耐えるであろうし、苦難や犠牲を求められてもそんなに不平を言うこともなくなるであろう。

しかしジョセフ・スミスは周囲の人々以上に神の御計画を知っていた。死の前に、彼は聖徒たちがロッキー山脈に導かれ、そこで大いなる力をもった民となるであろうと予言している。しかし聖徒たちと数人の指導者がどこかよそへ移ろうとすることは、たとえこのような予言があろうとも、当時としては途方もないことであった。最近私はカナダ西岸に近いバンクーバー島を訪れたが、地上で最もすばらしい所ではないかと思った。そして人々がなぜ温暖な気候のこの美しい土地を愛するかよく理解できた。聖徒たちが新しい落ち着き先を求めていた教会の初期の時代において、彼らはこのバンクーバー島に移住できるよう英国政府に請願したのである。しかしその願いは拒否され、多くの者はひどく落胆した。

さらに後になって、ブリガム・ヤングが美しい肥沃なカルフォルニアの地に移住したいと望んだ聖徒たちの願いを退けた時には教会を去る者たちもいた。なぜ彼らはロッキー山脈の頂にある不毛の荒野に移住しなければならなかったのであろうか。そこそがイザヤの予言が文字通り成就する場所であったからである。

主の山あるいは王国は諸々の山のかしらに立てられる必要のあることを思い起こしていただきたい。小さな山々

の上にあるさらに高められた山の中になければならないのである。そこにおいて聖徒たちは教えと力とを積み、イエス・キリストの福音すなわち石がそこから転がり出て全地を満たすのである。幾多の宣教師たちがこの地から出て行き、神は生きたもうて再び天から語りたもうているという聖なる教えを宣べ伝える時に、この予言が成就されたのであり、今もなお成就しつつあると言える。以上のような2つの神聖な予言が文字通り成就する地が他にあるだろうか。

このイエス・キリストの福音は聖書の中に記されているものであり、エルサレムの地に端を発していることがわかる。そのため聖書に見られる主のみ言葉もまさにこの地から起こっている。イエス・キリストを証する第2の聖なる書モルモン経もまた、エルサレムより始まっている。まさしく主のみことばはエルサレムより出されている。一方教義と聖約に記され、イエス・キリストの王国を統治するために生ける予言者を通して啓示されている主の律法は、シオンすなわちこのアメリカ大陸から出ているのである。

しかしこの予言にはさらに1つの考慮すべき点がある。それはヤコブの神の家である。ヤコブの家とはイスラエルの子供たちのことであるが、それではヤコブの神の家とは何であろうか。ヤコブの神の家とは、果てしなく続く山々のかしらに位置する高い山に建てられる神殿である。そこに世界中の人々が集まり、そのヤコブの神の家で神の道が人々に教えられる。今や人々はこれらの神殿で与えられる権能と力とを受け、全地に福音のおとずれをもた

らすべく山の本拠地から歩みを進めている。そしてどこかでこの力が貯えられて確かなものになると神殿が建てられ、やがて世界の至る所で目にするようになるであろう。この神殿では、神の知識と神の道が明らかにされる。神の子供たちはヤコブの神の家でより良く生きるための霊的な力を受けるのである。

霊的な力を受けるためにヤコブの神の家に行くのだということを理解した時、私たちは神殿をたびたび訪れることがいかに重要かがよくわかる。もし神権を持つ会員が定期的に神殿に行く機会を拒むとしたら、それは自分たちを造りたもうたお方であり、常に覚えてその道を歩むと誓約を交わしたお方である神を拒むことになる。私たちが神の神殿で交わす誓約は非常に大切なものであって、それを汚すことは永遠の救いを危くすることである。このため神権を持つ教会員はひとりで、あるいは神権定員会で、また妻と共に、霊を強め魂を奮い立たせるためにできる限り神殿に行かなければならない。定期的に神殿に入ってこそ、私たちは心をつくし、勢力をつくし、思いをつくし、体力をつくして主のために働くという約束の重要性を思い起こすことができるのである。(教義と聖約4:2参照)

私はすべての末日聖徒が今まで述べてきた2つの偉大な予言を忘れないように願いたい。私たちすべてにとって非常に意味深いものだからである。できる限り多くの機会に神殿に行けるよう、また生ける真の神を礼拝し仕えるよう、正しい生活をすることによって早く自分をふさわしい者としていただ

きたい。あなたがたが神殿において主と交わした約束と誓約を守ることにより、繁栄と幸福がもたらされるよう願ってやまない。主は私たちに戒めておられる。「汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求めるところを行いてその備えを為さざるべからず」(教義と聖約78:7) もし日の栄の祝福を願うのであれば、私たちは日の栄の律法を守らなければならない。

まだ教会員ではない方々は、あなた自身の心に問うていただきたい。私が2つの偉大な予言について語ってきた事柄は、あなたの心に親しみのこもった響きをもたらしただことがわかるに違いない。これらの予言は今なお完全に成就せんとしているのである。あなたが目を開いて自分の回りに何が起っているかをよく見さえすれば、あなたの前に主の御計画は明らかにされる。考え込んだり、疑問を抱いたりという時間の浪費はもはややめて、これらの原則をもっとよく調べてみれば、私の言っていることが真理であるとわかるであろう。さあ私たちと共に唯一の生ける真の神に仕え(教義と聖約20:19, Iテサロニケ1:9参照)神がこの末日においてあなたのために取っておかれた大いなる祝福を受けるにふさわしい者となろうではないか。人手によらず山から切り出された石が転がり出て全地に満ちたように、あなたも家族や友人たちにとってシオン山の救い手(オバデヤ21参照)になることができるのである。今や神の王国は神の真の予言者に導かれて発展しつつあることをイエス・キリストのみ名により証するものである。アーメン。

すべての人は アダムの祝福に あずかる

大祝福師

エルドレッド・G・スミス

アダムとイヴは、エデンの園より追い出された後、福音の原則と救いの計画、すなわち天父のみもとにたち返る

ための計画を教えられた。また2人はこの福音を自分たちの子供にも教えるように言われた。

彼の子供たちは、アベルを除いてほとんどその教えを聞こうとはしなかった。そしてアベルは殺され、やがてセツが生まれた。セツはアダムの教えを受け入れた。

主はアダムに、この世の終りまでも続く義なるすえを持つであろうと約束された。モーセの書には次のように記されている。「その日、父と御子の証を為したもう聖霊アダムに下りて宣いけるは、……汝堕ちしが故に贖われることを得ん。贖われんと欲するありとあらゆるすべての人類もまた然りと」(モーセ5：9)

さらに次の章には、こう記されている。「さて始めより在りしこの神権は、

この世の終りにも在るものなり。さてアダム聖霊に感じてこの予言を語りたれば、一つの系図神の子たちに就きて保たる……」(モーセ6：7—8)

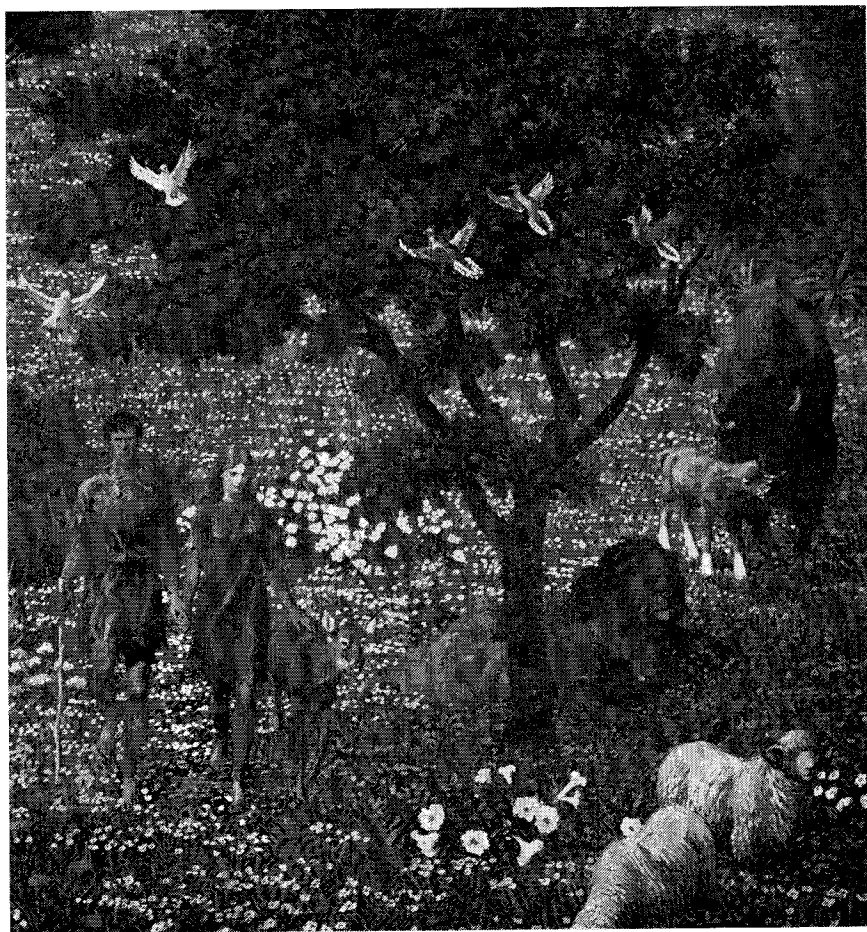
この系図はすばらしき王者のすえの記録となった。すなわちその一部は、ひとつの記録として約束が成就されたのである。これは、今日私たちがほんの一部ではあるが目にしており、聖書として知られている。

近代の啓示は次のように言っている。「この神権はアダムの時代に制められ、左の如く子孫に相伝されたるものなり。すなわち、アダムよりセツに伝わる。セツは六十九歳にしてアダムより神権を受く、またかれ(アダム)の死ぬる三年前に祝福を受けられたり。而して彼の子孫は主の選びたまえる民となり、また世の終りまで護らるべき神の約束を父アダムによりて受けたり。」(教義と聖約107：41—42)

この約束は、セツの子孫であるアブラハムにも繰り返された。「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される。」(創世12：3)

「また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである。」(創世22：18)

私たちには、選ばれた記録として高価なる真珠の中にアブラハムの書が与えられ、そこにはアブラハムの約束が今日の私たちとどのように関連しているかが述べられている。主はアブラハムに向かって言われた。「われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝



福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。われは汝を祝する者を祝し、汝を詛う者を詛わん。また汝(すなわち汝の神権)により、汝のすえ(すなわち汝の神権)による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり。」(アブラハム 2 : 9-11)

この祝福は、アブラハムの息子イサクに、またイスラエルとなったヤコブに、さらに十二支族の基となった12人の息子たちに新たにされた。

人が祝福師の祝福を受ける時、その人はイスラエルの祝福を宣言されるか、またはイスラエルの支族と言われて自分の祝福を受けることになる。これは、アダム時代より始まった覚えの書に記されている人々の祝福にあずかる特権である。

しかしこれは、この世のすべての民が文字通りアブラハムの子孫になるという意味ではなく、アブラハムのすえがあらゆる国民の中に散らされ、聖典に言われている如く、すべての人はアブラハムのすえによりて祝福を受け、そしてアブラハムのすえに数えられ、立ち上りて彼をその父として祝福するのである。(アブラハム 2 : 10参照)

もし教会員たちが文字通りアブラハムの子孫であれば、それなりの祝福を

受けるであろう。しかし文字通りアブラハムの子孫ではなく、教会に入って福音を聞き入れるのであれば、イスラエルに属する者を通して、あるいは養子縁組によってイスラエルと呼ばれることにより、神権の祝福とさらには永遠の生命までも受けるのである。

こうして地のすべての国民と眷族は、その忠実さによって福音の祝福と永遠の生命を受ける。このアダムに与えられた約束を成就するためには、それぞれの時期にあって常に神の予言者による神権の導きが新たにされる必要が明白である。この1つの時期は神権時代と呼ばれるものであり、すなわちアダムからセツ、エノク、ノア、アブラハム、モーセ、エライヤス、バプテスマのヨハネ、イエス・キリスト、使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネにまで続いている。

それぞれの神権時代では神権があらためて強調されている。そして敵の力に打ち勝つことにより、福音の祝福を受ける特権が人に与えられていることを繰り返し強調しているのである。

最後の神権時代は時満ちたる神権時代と呼ばれる。使徒パウロは、エペソ人へ宛てた書簡の中でこのことについて次のように言っている。「御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さったのである。それは、時満ちたる神権時代に及んで実現されるご計画にはかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。」(欽定訳 エペソ 1 : 9-10)

予言者ジョセフ・スミスは次のように述べている。「時満ちたる神権時代

は、世の初めより今に至るまで、かつて与えられしすべての神権時代により成り立つものなり。」(フランクリン・D・リチャーズ「概説」P.143, 1898年)すなわち福千年にこの地上を統治するイエス・キリストの来臨に備える最後の時であると称している。

私は皆さんに証する。今やその時であると。イエス・キリストの福音は、神権のあらゆる鍵と共にキリストの来臨への道を開けるべく今ここにある。

ジョセフ・スミスは、いにしえの予言者たちの如くに啓示によって召されたのである。バプテスマのヨハネはジョセフとオリバー・カウドリにアロン神権の鍵を回復し、続いてペテロ、ヤコブ、ヨハネによってメルケゼデク神権の鍵が回復された。カートランド神殿に現われたエライジャは、生きている者と死んだ者とのために結び固めの祝福の鍵を回復している。

そしてジョセフ・スミスは、死ぬ前にすべての鍵を十二使徒定員会に与えた。これら神権の権能の鍵はこうして今日まで保たれており、また救い主なる主イエス・キリストが福千年の統治を始めるまで続くのである。

私たちはすべての人がこの福音に耳を傾け、受け入れるように勧めるものである。世界中のあらゆる国民と眷族に、すべて永遠の生命の祝福を受け、小羊の覚えの書(教義と聖約85 : 9, 黙示21 : 27参照)に載せられるよう、また義なる者のすえにもたらされる祝福、すなわち永遠の生命の祝福にあずかるよう勧めるものである。

これは神の王国であることを、イエス・キリストのみ名により証する。

アーメン。

タイの 思い出

ミッキー・グッドウィン

□ ス、バス・アン、リッチー、クリス、スー、鉛筆が白紙の上を走り、無意識に私の世界の住民の名が加えられていった。そして、その時から、絵画という私の生涯の趣味が少しずつ始まったのだった。はじめにぱちりとした黒い目、これといった特徴もない顔、つりあがりぎみの目をふちどるまつ毛。別に何を考えるともなく鉛筆が動き、広くすべっこい鼻と薄いくちびるが描かれた。ほおに影をつけると、突然私はそれが見知らぬ人の絵ではないと知った。愛する家族の絵に並んで目の前にある絵は、パチェイニーの面影を宿していたのである。

素朴で無邪気なパチェイニー、愛すべきパチェイニー。

私はせわしがり屋のアメリカ人で、



タイの思い出

バンコクの新しい家に移った一日目の朝も、荷ほどきや家の整理にふりまわされていた。ひどい暑さと混みあう通り、子供とホテルに長く滞在していたこと、家捜しのむずかしいこと、人手がいることなどで、少々気がいらだっていた。ドアのノックの音がして出た時も、ぶっきらぼうな応対しかできない状態だったのである。タイに住むのは、とうてい私のがまんできるところではないと思われた。

「はい。何かございますか」ドアをあけた私の目には、ナツメグと金のような肌をした少女の顔が飛び込んできた。少女はとたんに手を胸のところに組み、おじぎをした。せかせかしていた私は、彼女の物静かな声を聞きとることができなかった。

「サ、ワ、デ」

「何ですか」少女が英語をわかってはくれないかと思い、尋ねてみた。

彼女は頭をあげると私の顔を見ずに「私は女中です」と答えた。

私はわきに寄って少女を中に招きながら、このように小さく若い少女は役に立たないだろうと考えたが、私が用意していた断わりの口を開く前に彼女は話し出した。「私はよく働きます。お役に立ちます。」

私は話の腰を折られてしまった。

「名前は何というの。」

「パチエイニー。」彼女はようやく私の顔をみあげて答えた。私はすぐに彼女の顔の無邪気な様子に心をひかれ、彼女が何もおくすることなく自信にあふれているのに驚いた。

「あなたは何歳ですか。」

「23歳」彼女はそう答えて、「住み込みで働きます。週7パートいただきます。」と言った。

それで決まってしまった。私は簡単に負けてしまったのである。

私は彼女を、家主がメイド向きの部屋といって紹介してくれた小さな部屋に案内した。パチエイニーは、固いベッドと小さな机とカーテンもないたった1つの窓があるその部屋を快く承知してくれた。身のまわりの品が入った小さなケースをベッドの上に置き、中からエプロンのようなカバーを取り出すと、パチエイニーはさっそく仕事を言いつけてくれというように私の前に立った。彼女は、私の家で働いている間中、もっとよいお手伝いを捜そうと思わせるようなことは何ひとつない最上の働き者だった。

ロスのタイでの仕事が始まって数カ月が過ぎる頃、私は子供の世話や、所属の小さな支部一ほとんどは軍人だった一やアメリカン・スクールの仕事で忙しい毎日だった。パチエイニーについて知っていることといえば、家族がコラトの近くの片田舎に住んでおり、自分は英語を学校で習い、仏教の信者であるということ位だった。私は彼女の部屋の装飾を手伝ったり、髪を編んであげたりしたが、なぜか彼女の宗教については考えなかった。事実、まったく意に介していなかったのである。

今考えてみると、その時宗教の意義を理解していなかったことが不思議に思えるのだが、パチエイニーが英語の練習にと言って子供たちに本を読んでやっている時、話はいつも聖典の物語

に及ぶのだった。彼女はいつも家庭の夕べに出席し、家族の祈りに加わっていたにもかかわらず、私たちがお祈りや責任を頼むと、いつも静かにほほえみながら「いいえ、聞いているだけです」と答えていた。

ある晩、航空兵のジェリー・カーカムという青年が夕食に招かれてやってきた。ジェリーが伝道に出たことがあるという話が出、「カーカム長老」とからかい始めた。

パチェイニーは子供たちのおどけた仕草を楽しそうに、また珍しそうに見ていたが、やがてジェリーに遠慮がちに話しかけ、「どうして子供さんたちがあなたを長老と呼ぶのですか。あなたは若いのに」と聞いた。

私たちはみんな笑い出してしまった。ジェリーはパチェイニーに、長老というのはキリストの教会員で、イエスさまからそのみ名によって導きや祝福やいやしをする権威を与えられた人のことだと説明した。パチェイニーはその説明を熱心に聞いていたが、彼の話が終るとロスの方を振り向き、「御主人も長老ですか」と言った。

ロスはうなずき、もっと何か彼女に話そうとしたが、彼女はほほえんだだけで、あいさつをし、部屋をひきさがった。その短い会話が彼女にどんな印象を与えたかは、だれも知るよしはなかった。

パチェイニーは年長のリッチーやクリスを、タイのゲームや歌や習慣を教えたりして可愛がったが、末の青い目をしたかわいらしいスーに対する愛情は、熱愛といっても過言ではないほど

だった。彼女がスーにかがみ込んで接している姿は目にすることがなく、いつもあの子のかたわらにひざまずいてリボンンを結んでやったり、洋服のボタンをかけたり、手を洗ってやったりしていたのである。スーもパチェイニーが大好きだった。ペットのように家や庭中をパチェイニーのあとについてまわっていた。パチェイニーが帰省するたびに、2歳のスーはしつこくパチェイニーの行方を尋ねるのだった。

私たちがタイに住んで1年ほどたった頃、スーは病気になった。はじめは大したことはないだろうと思い、熱も1日か2日でひくだろうと思っていたが、4日たっても薬は効果なく熱もひかないため、心配になってきた。ロスは暇をみつけてはスーの具合を見に帰り、パチェイニーは何百回となくスーの部屋へ通った。6日目に医師が再度来てくれ、様子を見て治療を施したが、熱が翌朝までひかなければ入院ということになった。

パチェイニーはその夜いつものように私たちの食事を用意してくれたが、自分は手をつけなかった。私は彼女も病気になってはと思い、早めにテーブルを離れ、彼女の部屋へ行こうとしたが、スーの部屋の前を通りかかると聞きなれたやさしいパチェイニーの声がした。しかしスーと話す時のいつもの声の調子と違う緊迫した様子なので、立ち止まってカーテンの向こうを見ると、小さい黒髪のパチェイニーがスーのベッドのわきにひざまずいて、祈っている姿が見えた。

「私はこれまで仏教徒でした。でも、

今はイエスさまのことを知っています。イエスさまは本の中で、『たずねよ』と言っていますから、私はお願いをします。このスーをなおして下さい。スーはまだ小さいんです。病気になるなんてかわいそうです。あなたとイエスさまはスーをよくして下さいます。私は、これから仏教徒をやめます。私はイエス・キリストを知っています」

パチェイニーはそのあと、振り返って私を見、自分が私の信じている神に祈っていた所を見られたことにだいたい困惑した様子だった。

彼女は私に、それまでになく怒った調子で言った。「どうして本に書いてあるように、カーカム長老を呼ばないんですか。」

私の背はパチェイニーのやさしい顔の輪郭をなぞり続けていた。神の子供たちのうちにこれほどすばらしい子供はいないに違いはないと思いながら…。

竹を足にした床高の建物にただよう古代の香、市場の花売り、田植えの緑、ひそやかな石の仏に向かいひざまずく人々、パチェイニーの同胞である人々、かの人々も神の息子、娘であり、喜びの訪れを待ち望む人々であると思ひながら……。

グドゥウィン姉妹 ウインター、コータース・ステーク部カウンスル・ブラフスワード部所属の姉妹は退役空軍将校の夫君を持つ8人の子の母親である。結婚前は幼稚園で教えた経験を持ち、現在は扶助協会霊的生活の教師である。



カリモア長老を迎えて

日本伝道部大会開かる

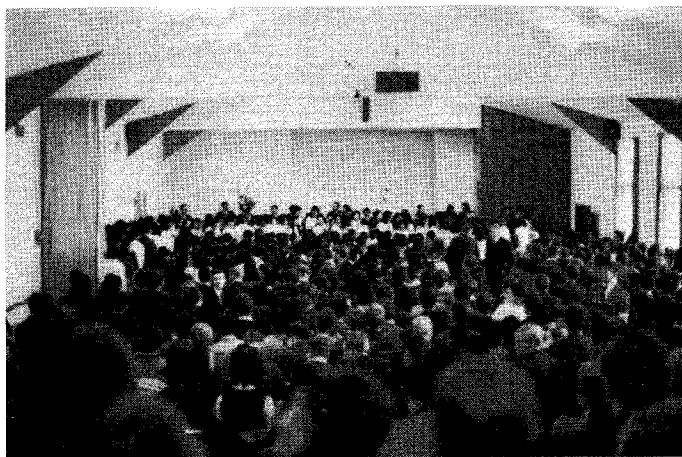
12月8日、夜おそく再び来日して下さったカリモア長老を羽田にお迎えしました。翌日から西に東にとお忙がしいスケジュールの中から、私達の長い間待ち望んでいた日本伝道部の大会が開かれ、それを管理して下さいました。

12月11日 土曜日、東京ステーキ部第三ワード部のリクレーション、ホールいっぱい集まった会員達。各支部、伝道地のコーラスの発表、フォーク・ダンス。「こんなに広い場所に、あれ程沢山の人が、あんなに秩序正しくフォーク・ダンスを楽しんだのははじめてだ。」とは指導して下さいった浜田北地方部長さんの感激の言葉でした。たった4つの支部からはじまった日本伝道部が、わずか1年半程の短かい間に十幾つもの支部や伝道地が美しいコーラスを競いあえるまでも成長したこと、リクレーション・ホールに入りきれない程の若者たちが集まったMIAは最初から私達の胸を熱く燃やしました。

翌12月12日は第三ワード部の皆様の御好意により、早朝8時30分より、神権会と扶助

協会の大会が開かれました。その時すでに、リクレーション・ホールは神権者たちがあふれ、多くの人が椅子も得られないまま、指導者たちの言葉に耳をかたむけ、また礼拝堂も次々と集う姉妹たちでいっぱいでした。

田中ステーキ部長さんの御挨拶の冒頭に「椅子の数だけ人が集まる」とおっしゃった言葉どおり、一般大会が始まるともうステージまでぎっしり。とうとう宣教師たちは立たされる憂き目にあいました。でも、長い間大会を待ちこがれていた聖徒たちの瞳は、カリモア長老、アボ伝道部長御夫妻、そして指導者たちの話しにキラキラと輝いていました。ユーモアに富んだ話手たちの話に時には笑いを誘われながらも私達



の真剣に取りくんでいる問題であるモルモンのコート・シップ、結婚、家庭のテーマについて話されることに、一生けん命耳をかたむける人々の顔は真剣そのものでした。満たされた面持の兄弟姉妹たち、来春の大会での再会を約しながらも、「今度は、この建物に全部入れるかなあ」と心配そうでした。

第1回 モルモンオリンピック

コンファレンスの思い出

初冬の風が肌を刺す11月23日(勤労感謝の日) 広島に於いて第1回モルモンオリンピックコンファレンスが開かれました。

古代ギリシャオリンピックのテーマである真、善、美を求めて、老いも若きも教会に近い中学校の体育館に集まりました。

この日のために、何か月も前から計画したのですが、初めての試みなので多くの問題点や障害がありました。しかしながら、開会の高らかなファンファーレを聞いた時には本当に今までの苦労や疲れなどいっぺんに吹き飛んでしまったような心地でした。

赤組白組に分れ、準備体操を終えいよいよ競技開始です。全員参加の風船割りから3人4脚障害、ボール運び、勝ちぬきジャンケン等、楽しく行ない、普段の運動不足を改めて感じさせられました。

午前の部、最後のプログラムであるフォークダンスを踊る頃には、皆のおなかも程よくすき、扶助協会の姉妹たちの手で用意された「おでん」のにおいが鼻をくすぐり始めました。おでん、ぜんざい、おむすびの献立にダンスが終ったとたん、今までの競技の疲れもどこへやら、皆全速力で売店へ……やがて、

満足そうな笑顔で楽しそうに語り合う兄弟姉妹たちの姿が見られました。

午後からのプログラムは人生リレー、むかで競争、あめくい、パンくい、騎馬戦、借り



物競争と大がかりなものばかりでした。

明日の疲れを気にしながら走る年とった？兄弟姉妹たち、またかぶとをかぶって氣勢をあげた騎馬戦、どれも楽しいプログラムでしたが、中でもあめくい競争の時、おりからの強い風も手伝って兄弟たちの顔はバックならぬメリケン粉で真っ白け、姉妹たちは小じわを気にしながら大笑いして楽しみました。

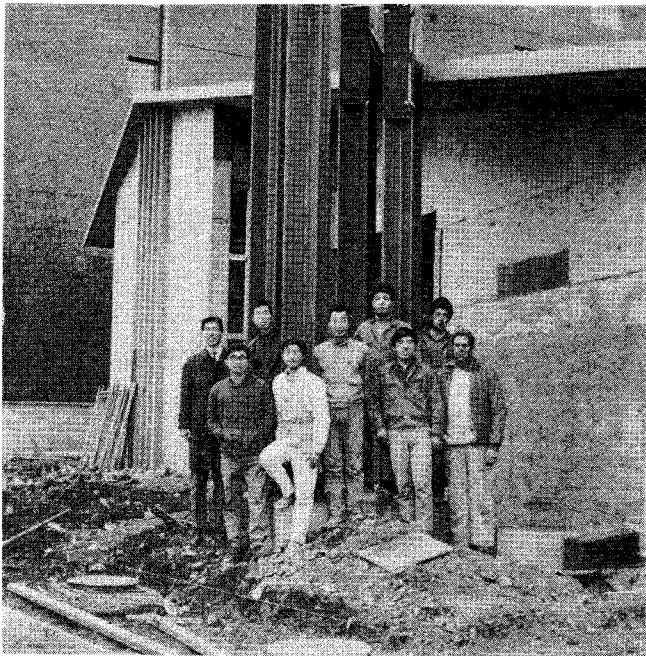
いよいよ最後のプログラム、借り物競争で、それまで断然赤組を押えていた白組は赤組のみごとな逆点に無念の涙をのんだのでした。

こうして全プログラムを無事に終え、讃美歌と祈りによって閉会しました。小人数ではありましたが、この第1回オリンピックコンファレンスは和気あいあいのうちに本当に楽しく過ごすことができました。また、互いに神様の子供としてスポーツを通じて1つのプログラムを遂行する時に、私たちは心からの喜びを得、兄弟姉妹の愛を深めることができるといふ証を持つことができました。

来年、再来年と経験を積んで行くことにより、このオリンピックコンファレンスが大きくなることを望みつつ、快い疲れの中に帰途につきました。



がんばって！（パン食い競争）



京都支部正面にて
オルソン監督、角山副監督と建築宣教師達

京都支部

雨もりがし、床が抜け落ちそうであった古家の京都支部の建築が始まって9カ月、前にあった黒い板塀が取除かれて、立派なモルモン教会堂が、道行く人々の注目を集めております。

2月一杯には、完成の予定で、現在6名の建築宣教師が、オルソン監督、角山副監督の指示のもとに、仕事に励んでおります。京都支部の会員も日夜、建築の手伝い、宣教師の世話また、献金などと一生懸命働いております。建築の当初か

進展する

建築プログラム

ら、伝道部長の提案によって行われている各支部の会員達による暖い物資の援助に心から感謝しております。

名古屋支部

中部地方部の中心である名古屋支部の土地に、いよいよ待望の建築が始まろうとしています。くわ入れ式は1月22日に行われて、いよいよ、建設会社の手によって約7カ月間で完成する予定で、工費は約4,000万円。中村支部長を中心に名古屋支部の会員達は、建築資金を準備する為に、バザーや会員達の寄附などに熱心に働いており、本年1月から11月末迄に、バザーでの42万円を始め、約200万円の資金を獲得しまして、今後もその活動を、一層強化して、一日も早く、新しい建物で、集会の出来る日をと、すべての会員が、一致協力して働き、支部全体の信仰と証詞が急速に高まっております。

西宮支部

西宮支部の建築の準備も進められておりまして、京都支部の建築が2月に終わりますと、引続いて、西宮支部の建築が彼等の手によって行われる予定です。

ニューススポット

○福井市に伝道所が誕生

1971年11月10日に石川県福井市に、伝道所が開設され、12月末迄に4名の兄弟が誕生し、順調に、スタートを切りました。

○富山市に伝道所が誕生

福井市に引つづいて、12月10日に、富山県富山市にも伝道所が開設されました。

10年前には、金沢支部で2名の宣教師が働いていましたが今ではこの北陸の地に、合計22名の宣教師が働いており、神の奇しき御業が、ここでも行われております。

住所：福井市足羽1丁目14-23

富山市丸の内2-3-9、丸の内ビル2階

(鈴木記)

離れても日輪一つ神一つ

全日本M I A大会

直径約10万光年（1光年とは光の速さで一年かかって届く距離）といわれるわれわれの銀河系の外側に拡がっているものは、はてしもなく、そして底知れない大宇宙の空間である。銀河系の星々の間から、望遠鏡でその奥深い神秘的宇宙をのぞいてみると、そこには星とは違って輪廓のぼやけたさまざまな形の天体が、数限りなくかすかな光を放っている。

この天体の一つが、われわれ所属する銀河系小宇宙と同じ規模ないしはそれ以上の別の小宇宙である。

（恒生社「新天文学講座」より）

* * *

広漠たる大宇宙のすみずみまで支配される全智全能の父なる神は、この私たちの住む地球に新しく手をおかれ、私たちがまた御元に立帰るよう見守っておられます。私たちは前世にあって、自らの父である神のようにになりたいと強く望み、父の提示された計画にそって、この地上にて試練を受けることを約束しこの世に生を受けました。

* * *

日本は、東と南は太平洋に面し、西と北はオホーツク海、日本海東シナ海をいだき、それらを隔ててアジア大陸の諸国と相対している。日本の国土の面積を外国のそれと比べると、ソ連の60分の1、中国の26分の1、米国の25分の1に過ぎない。しかし人口は1967年（昭和42年）に一億を越え、世界第七位である。

（小学館「大日本百科事典」より）

* * *

私たちは、前世に於いて、自身の自由意志と、神への忠実さに応じ、それぞれそのふさわしき時とふさわしき地を与えられました。

今、この日本の地に住えうすべての人々はこの地にいる理由があります。この末日に生を受けた理由もあります。

特に末日聖徒となった私たちは、前世にあって、忠実な霊として特別に召され、この地上に送られてきました。北は北海道から南は沖縄まで、今いる場所に意味があり、理由があります。

* * *

「さて見よ、一つの驚嘆すべき業、まさに人の子らの中に現われんとす。この故に、汝ら神の役務に出で立たんとある者は、終りの

日當臨みて神の前に咎なくして立たんため、すべからく心をつくし勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神の役務をなせ。されば汝らもし神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり。そは見よ畑は早白くして刈り入れを待つが故なり。また見よ、勢力をつくして鎌を入れる者は、亡びずしてその身も霊も救いを得るために庫に積み入るるなり。神の栄光を、まごころもて仰ぎみて、信仰、希望、慈悲、仁愛の徳を有つ者は、神の業に仕うる資格あり。信仰、徳行、知識、節制、忍耐、兄弟の親切、敬虔、慈悲、謙遜、勤勉などの諸徳を忘るることなかれ。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かるることを得ん。アーメン。」（D C 4）

* * *

それぞれの地域にて、神の業に従事するには、その地域に合ったきめ細かなプログラムが必要です。それ故、神は地をいくつにも分けられ、ステーク部となし、伝道部となし、またそれらを、ワード部に、あるいは支部に分けて指導者を立てました。私たちはその所属する地域の中で与えられた責任を一生懸命にはたすのです。しかし、時々私たちはそれら分れた地にいる者が一同に会し、神様の統一された心を確認する必要があります。そのため、数々の大会が時に応じて開かれます。

さて、日本の末日聖徒の若者に課せられた使命は、今日はもちろんですが、それよりも明日、すなわち、将来の日本という大きな問題があります。末日聖徒の将来は現在の青少年の手の中にあり、現在の若人の成果は明日へとつながっていくのです。そのような時、一年一度、全国の若人が一同に会し、その成果を発表し合い、神様の御業が一つであることを証し合い、大きな見地から日本を見、自分が見つめることが出来るように大会を開くことは大きな意義をもちます。

全日本M I A大会は、このようなビジョンのもとに計画され実行されようとしています。

真夏の太陽の下で全国の末日聖徒の若者の心が一つにとけ合い、どこにあって神の御業は一つであり、行くべき道は一つであると感じた時こそ、こぞって証するでしょう。

「離れても日輪一つ、神一つ」と。

聖 徒 の 道

昭和42年12月18日第三種郵便物認可
1972年2月20日発行（毎月1回20日発行）第16巻第2号

